

日米知事フォーラム2018の概要

〔アメリカ州知事団の滞在記録〕

日程 平成30年(2018年)8月26日(日)～8月28日(火)

全 国 知 事 会

目 次

I	米国側参加者（州知事等）名簿	1
II	米国知事等滞在日程	1
III	日米知事フォーラム2018主要行事概略	
	1. オープニングセレモニー	2
	2. 知事公開セッション	26
	3. 知事セッション	53
	4. レセプション	76
	5. 表敬訪問	77

I 米国側参加者（州知事等）名簿

ネバダ州知事（全米知事会前会長）	ブライアン・サンドバル 及び同夫人
ケンタッキー州知事	マット・ベビン
ニューメキシコ州知事	スザナ・マルティネス
ネブラスカ州副知事	マイク・フォーリー
グアム島経済開発庁長官	ジェイ・ロハス

II 米国知事等滞在日程

- 8月26日（日） 米国州知事等来日
歓迎夕食会
- 8月27日（月） オープニングセレモニー(於：ホテルニューオータニ東京)
知事公開セッション(於：ホテルニューオータニ東京)
個別会合（於：ホテルニューオータニ東京）
全国知事会主催レセプション(於：ホテルニューオータニ東京)
- 8月28日（火） 知事セッション(於：都道府県会館)
経団連主催昼食懇談会(於：経団連会館)
JETRO主催経済投資セミナー（於：JETRO本部）
安倍総理表敬訪問（於：総理官邸）
クロージング・セレモニー及びレセプション
（於：赤坂プリンスホテル・クラシックハウス）

Ⅲ 日米知事フォーラム2018主要行事概略

1. オープニングセレモニー

【日 時】平成30年8月27日(月) 10:10～12:00

【場 所】ホテルニューオータニ東京 ザ・メイン宴会場階「芙蓉の間」

【参加者】（日本側）

上田 清司	全国知事会会長（埼玉県知事）
荒井 正吾	奈良県知事
平井 伸治	鳥取県知事
伊原木 隆太	岡山県知事
湯崎 英彦	広島県知事

（米国側）

ブライアン・サンドバル	ネバダ州知事（全米知事会前会長）
スザナ・マルティネス	ニューメキシコ州知事
マイク・フォーリー	ネブラスカ州副知事
ジェイ・ロハス	グアム島経済開発庁長官

（来賓 ※挨拶者）

野田 聖子	総務大臣
河野 太郎	外務大臣
ウィリアム・F・ハガティ	駐日米国大使

（1）開会挨拶

○司会

皆様、日米知事フォーラム2018、オープニングセレモニー、よくお越しく
だしました。はじめに、全国知事会会長 上田清司埼玉県知事より、御挨拶を
お願いいたします。上田会長、よろしくをお願いいたします。（拍手）

○上田会長（埼玉県知事）

全国知事会を代表して、一言御挨拶申し上げます。埼玉県知事の上田清司で
す。

本日はサンドバル全米知事会前会長をはじめ、米国州政府の皆様が、公務御多
忙の中、遠路日本に来ていただき、このように御参集いただきましたこと、厚く

御礼を申し上げます。

また、日本政府からは野田総務大臣、河野外務大臣、藺浦総理補佐官、アメリカ政府からはハガティ駐日大使をはじめとする皆様にも、御臨席をいただいております。加えて経済界から植木経団連アメリカ委員会委員長をはじめとする皆様にも御参加いただいております。

これまで4年間にわたって、全米知事会の会議に日本の知事をお招きいただき、全国知事会からは平井鳥取県知事、湯崎広島県知事、今回出席されておりますが、三日月滋賀県知事等が参加し、交流を深めて参りました。その結果、本日全国知事会として、州知事の皆さんを日本にお迎えすることができました。

グローバル化が進む中で、知事はグローバルな視点で考えていかなければ、日本においても様々な解決ができません。私は常々地方政府で働く上で、いわゆる自分の県だけを見る「虫の目」だけではなく、時流を見る「魚の目」、あるいはまた広く世の中を俯瞰する「鳥の目」を持たなければならないと述べております。グローバルな視点とは、まさにこうした「鳥の目」であり、時として「魚の目」であるのではないかと考えています。

「Think globally, act locally」という言葉があります。まさに大きく視野を広げて、そしてまた地方に根差して行動していく。「グローカル」という合わせた言葉もございます。まさに私たち、全国知事会のメンバーは「グローカル」な立場で仕事をしておるところでございます。そうした意味で、本日のフォーラムが大きな力になるものだと信じて疑っておりません。

また、地方政府レベルで忌憚のない意見交換を行うことにより、日米両国間の相互理解と協力関係がさらに深まるものだと考えております。

本日からのフォーラムが、御参加の知事にとって、実りの多いものになるよう、ホスト役を務めて参ります。この場に御参加の皆様の御協力を改めてお願いするところです。

さて、ここで皆様にアメリカの州知事を代表して、サンドバル・ネバダ州知事を御紹介申し上げます。先月まで全米知事会の会長を務めておられました。このフォーラムの実現に大きな御尽力をいただいたことを、改めて御礼申し上げ、御紹介をいたします。（拍手）

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

会長、過分な御紹介をいただきまして、本当にありがとうございます。全米知事会を代表して、このような形でお話をさせていただくことができるのは、本当の意味で光栄なことです。

また、今はまさに歴史的な瞬間であるというふうに思っております。全米知事会のメンバーが数名、このように他の国にお邪魔をし、海を隔てた同僚の方々と意見の交換をするという。

今回はスザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事も一緒に参加をさせていただきます。初めてのことだと思います。

また、今回はネブラスカ州のマイクフォーリー副知事も日本に来ております。

また、グアムからジェイ・ロハス長官、カルボ知事の代理ということで参加をしております。

会長、また同僚である日本の県知事の皆様方、このような形でお国にお邪魔をし、この歴史的な瞬間の一翼を担うことができるのは本当に素晴らしいです。私、初来日、東京も初めてなんですが、非常に温かいおもてなしにもう圧倒されています。

またこの都市の、またこのお国の美しさにも圧倒されておりまして、再びぜひ戻って来たいという意を、もう既に強く持っております。

それからもう一つ、今日のこのことに関わって重要だと思うんですが、2週間前に結婚いたしました、ローラ・サンドバルと申します。妻も伴って参りましたので、ぜひ紹介させていただきたいと思います。

また、今日の午後ですが、ケンタッキー州のマット・ベビン知事も加わってくれることになっています。これだけの数の州知事が日本に集まったというのは、やはり日米関係の重要性が一層高まっていることの証だというふうに思っております。

ここ東京で、両国が直面している喫緊のテーマについて、意見の交流をすることになっておりますが、全米知事会を代表し、NGAを代表して、グローバルパートナーシップが州及び県レベルでさらに重要性を増していく中で発言することができるというのは、光栄だというふうに思っております。

また、上田会長からグローバルという、私にとっては新しい言葉ですが、教えていただいて、大変喜んでおります。

国際舞台における地方同士の交流の気運が高まっていることを受けて、全米知事会も今年2月からNGAグローバルプログラムを立ち上げましたが、実はこれはかなりの部分、日本の方々からの大きな働きかけ、それがきっかけになっております。2015年以来、全米知事会議には他のどの国よりも多くの代表者の方が、日本から参加をしていらっしゃいます。それに関しましても、御礼を心から申し上げたいと思います。これが非常に大きな後押しとなって、今日のような交流が可能になりました。

先月開かれたニューメキシコでの夏季大会における日米交流セッション、これがまさにこの辺りの経緯をよく表していると思っております。ジェトロの共催を得て開かれたこのセッションにおいて、アメリカ各州の経済成長の継続において、日米関係がいかに重要であるか。これが改めて確認されました。

日本はイギリスに次いで2番目に重要な投資国であります。さらに製造部門では他のどの国よりも大きい。合計40万以上の雇用を創出している。つまり、雇用を日系企業がもたらしています。

セッションではダイキン、日立、トヨタの3企業から、そのことがもたらす経済インパクトの説明があっただけではなく、日本の政府、地方自治体からも様々な議論への参加がありました。

安倍首相補佐官の藺浦氏、また、杉山駐米大使、それから地方行政からは平井知事。平井知事とはお目にかかることが多く、いつも楽しみにしております。参

加がありました。特に平井知事は、数回に渡り、全米知事会議に御参加いただき、これは海外からの最多数の参加になります。世界のどの国の代表よりも多く参加していただきました。非常に熱心に協力、交流を呼び掛けてくださったことは、私を含め、全米知事は決して忘れることはないと思し上げたいと思います。

日本の知事の皆さんと直接やり取りができることは、両国の経済発展において、必要な両国の関係を構築する礎になると思います。だからこそ、このパートナーシップに対する皆様の献身的な御尽力に心から感謝すると同時に、今後の協力関係に期待するものです。

最後に、忙しいながらも建設的な数日を皆さんとの有意義な議論に費やすことができる。本当に心躍る思いだということを申し上げたいと思います。両国が直面する最も重要な政策課題について、日本の同僚の方々と協力ができることを、心から期待しつつ、こちらに来ることができ、光栄だということを申し上げ、このような機会をいただいたことに対する感謝の言葉としたいと思います。

歴史というのは作られつつある、その只中にいるとなかなか気付かないものがございます。まさに生涯に渡って忘れられないような、そういう交流になると思います。（拍手）

（２）来賓挨拶

○司会

サンドバル・ネバダ州知事、ありがとうございました。

３名の方より御挨拶を頂戴いたします。最初に野田聖子総務大臣から御挨拶をいただきます。（拍手）

○野田聖子総務大臣

御列席の皆様、こんにちは。総務大臣の野田聖子です。

本日は日米知事フォーラム２０１８にお招きいただき、ありがとうございます。

まず、今回のフォーラムが上田清司全国知事会会長及びブライアン・サンドバル前全米知事会会長の御尽力により、１９９４年以来２４年振りに開催されることを、心からお祝い申し上げます。

本日のフォーラムには、米国のネバダ州、ケンタッキー州、ニューメキシコ州、ネブラスカ州及びグアム準州の知事や幹部の方々が参加されていると承知しています。皆様の御来日を心から歓迎いたします。また、日本からは茨城県、愛知県、奈良県、鳥取県、岡山県、広島県の知事の皆様に御出席いただいています。

さて、日本の総務省は地方行財政制度全般を所管しており、地方レベルの国際交流や国際協力の推進にも取り組んでいます。日米間の姉妹自治体交流は、市区町村を含めるとその数は４５４と、他のどの国との交流よりも多くなっており、地方レベルにおいても米国は日本にとって重要なパートナーです。

また、１９８７年に開始され、総務省、外務省、文部科学省等で協力して実施している、外国青年招致事業であるジェットプログラムでは、ＡＬＴやＣＩＲ等として、３２年間で累計３万４０００人を超える多くの青年が米国から来日しており、米国は来日青年数全体の５割を占める、最大の参加国となっています。

そして、プログラム参加者は両国の架け橋として、様々な形で日米間の相互理解や、関係強化に貢献していただいています。例えば東日本大震災や熊本地震、今年の平成３０年７月豪雨においても、全国各地に赴任しているジェットプログラムの参加者やＯＢ、ＯＧの多くの方から、被災地に対してボランティア活動や募金活動等の積極的な御支援をいただいたと伺っています。そのような御厚意に対して、この場をお借りして感謝を申し上げます。

長年にわたって積み重ねられてきた、日米間の地域や人々の直接的な交流を通じて培われた相互の信頼と協力関係は、世界でグローバル化が一層進展する状況の中で、これまで以上に重要な役割を果たし、今後も日米両国にとってかけがえのない財産となると確信しています。

私自身も１６歳から１７歳にかけて、交換留学生としてアメリカ・ミシガン州で一年間滞在させていただきました。そこではホストファミリーの皆さんの大変温かな愛情の下で幸せな日々を送らせていただきました。４０年経った今でも、その御家族と交流があり、毎年のクリスマスプレゼントにはお互い、それぞれの自慢の品を交換しあっています。アメリカからは必ず、私が１６歳の時に大好きだったコップトアートやキャンディーバーやリーシーズのピーナッツバターカップ、毎年、毎年送っていただいています。私自身も本当に人生の宝として、このアメリカでの出会いをかけがえのないものだと思っています。

総務省といたしましても、引き続き日米間の地域交流、人的交流を進化発展させ、両国の絆を一層強固なものにしたいと考えています。

最後になりますが、本日午後のセッションでは「新産業創出と国際投資促進における地方政府の役割」をテーマに御議論されると伺っています。国の経済発展のためにも、地方から経済を活性化させることが重要であり、今回の取り組みは大変意義深いものと考えています。日米両国がお互いの経験を参考にしながら、共に知恵を出し合い、両国間の新しい形の交流、協力の在り方について、活発な議論を行っていただきたいと思います。

日頃から日米両国の行政の第一線で御尽力いただいている御臨席の皆様に対して、深い敬意を表し、感謝を申し上げますと共に、本日のフォーラムの御成功を心からお祈りいたします。ありがとうございました。（拍手）

○司会

野田総務大臣、ありがとうございました。

それでは次に河野太郎外務大臣から御挨拶をお願いいたします。演台の方をお願いいたします。（拍手）

○河野太郎外務大臣

知事の皆様、おはようございます。御来賓の皆様、御参会の皆様、おはようございます。

アメリカと日本の二国間関係は、人と人との関係に基づいています。安倍首相はトランプ大統領と電話会議で、恐らく少なくとも月2回話をしています。時としてバレンタインデーのような時には、1時間以上に渡って話をすることがあります。これは私が妻と話をする時間より長いです。頻繁にゴルフもしておりますが、スコアについては秘密ということになっています。

リーダー間の、指導者の間の関係ではなく、日米の間にはたくさんの姉妹都市関係があります。また、様々な交流があります。また、野球選手も行き来しています。今、大谷翔平選手がアメリカでプレイをしています。

したがって知事同士が定期的に会う、そしていろいろな二国間の問題を話し合うということは、ごく自然なことと考えます。現在、多くの人たちが両国の間の貿易不均衡の話をします。日本とアメリカの間には、確かにアメリカにとって貿易赤字という状況があります。

しかしながら、知事の皆さんが御存じのように、日本とアメリカにおける日本企業とを考えると、アメリカにとっては貿易黒字という状況になっています。というのは、アメリカにおける日本の企業がアメリカから輸出しているからです。その輸出額は二国間の貿易赤字を上回るものです。したがって、アメリカの対日貿易赤字を考えると、関税というのが唯一の解決策ではありません。日本の対米投資を増やすことによって、より多くの雇用を生み出し、より多くの輸出を生み出すことができます。

したがって、私たちとしては、どのようにしたらビジネス環境をアメリカにおいて改善できるか、考えることが重要と考えます。そうすることによって、日本の対米投資を増やすことができると思います。このフォーラムでの議論を楽しみにしています。年末には両国間のビジネスをいかに促進できるかということを話し合えればと思います。ありがとうございました。日本によろそお越しいただきました。（拍手）

○司会

河野外務大臣、ありがとうございました。

駐日米国大使ハガティ大使、どうぞ。（拍手）

○ウィリアム・F・ハガティ駐日米国大使

皆様、おはようございます。河野外務大臣、野田総務大臣、おはようございます。お目に掛かれて嬉しいです。私の同僚、杉山大使がワシントンDCから本日、御臨席いただいております。ステージで御一緒できるのを嬉しく思います。また、全ての御列席の知事、そしてNGAの各メンバーの皆様方、心から歓迎を申し上げたいと思います。

20年以上中断されていた日米知事フォーラムの諸会合の再開に、皆様方と参加させていただいていることを大変、幸福に思います。

本日参加されている全ての知事の方々に心から歓迎の意を表したいと思いますが、本日の会合には広島県知事と岡山県知事が出席されておりまして、アメリカ国民に代わって、先日の悲劇的な豪雨災害で非難生活を余儀なくされた、大切な人を失った、様々な被害を受けられた方々に、心からお悔やみ、お見舞いを申し上げたいと思います。

また、この重要なフォーラムの再開に向けて尽力された日米の知事会の皆様方のビジョン、そして御尽力を心から御祝い申し上げたいと思います。

大使としての私の最優先事項の一つは、両国関係を経済、通商の絆を通して、特に海外を直接投資の分野でさらに強化することです。日本と米国ほど、双方向の直接投資によって益する、二か国はありません。

実際のところ、米国は日本にとりまして最大の投資国で、対日投資残高の約35%ほどを占めております。さらに投資を増やすことができると確信しております。日本の県知事との面談で、私は米国からの投資を非常に歓迎されていると、強く感じ取っております。

同じく、日本は米国経済にとって最も重要な直接投資をしてくださっている国であります。本日列席されている素晴らしい州知事たち、そして参加が叶わなかった知事も含めて、お気持ちを代表していると思いますが、日本の対米投資を感謝し、今後お願いしたいと思っております。

この18か月間、米国大統領は企業への政府負担の軽減、規制の合理化、そして米国経済の堅調な成長を加速する上で尽力してきました。このような事態の展開は、投資先としての米国の魅力がかつてなかったほど高めていると思っております。

日米の企業の保有資産が何兆ドルにも膨らんでいる中で、いかにしてさらに雇用を増やし、今後両国の経済を成長させる投資をさらに刺激することが可能でしょうか。

知事たちにとにかく関わってもらう必要があります。皆様方がリーダーであり、企業と連携し、各州や県で投資家を見つける手助けができるリーダーたちであります。皆さんがビジョンを持ち、かつ将来の投資家のニーズを満たすインフラを地元で整備する能力を持ったリーダーたちであります。それが認可であれ、輸送、インフラ整備あるいは人材の訓練であり、知事たちはこのような分野において、実りある成果を導き出すことができます。

この二日間に育まれる友情、パートナーシップがその取り組みにおいて極めて重要な役割を担うことでしょう。私たちも連携することによって、安倍総理とトランプ大統領が両国で設備投資を増やし、そして経済の建設性とそして当然のことながら、国民のための反映を活気付ける助けができると思っております。

本日御列席の知事の皆様方は、私たちの前にあるチャンスを十分に認識されております。私は州、そして県のさらなる反映を、希求される皆様方を御支援する上で、私は大使館のリソースを固める用意があるということを御承知おきいただきます。共に成功したいと思っております。（拍手）

（３）来賓紹介

○司会

大使、ありがとうございました。

それでは御臨席いただきました来賓の皆様を御紹介いたします。

まず、総務大臣、野田聖子様。（拍手）

外務大臣、河野太郎様。（拍手）

駐日米国大使、ウィリアム・Ｆ・ハガティ様。（拍手）

内閣総理大臣補佐官、藺浦健太郎様。（拍手）

駐米日本国大使、杉山晋輔様。（拍手）

一般社団法人日本経済団体連合会アメリカ委員会委員長、植木義晴様。（拍手）

皆様、本日はお時間をお取りいただきまして、ありがとうございます。次は知事によるプレゼンテーションですが、その前に短いコーヒープレイクを取ります。コーヒープレイクの後、再開をいたします。

（４）コーヒープレイク

（５）知事挨拶

○司会

それでは再開したいと思います。ここからは御出席いただいている日米両国知事お一人お一人より、州または県の御紹介と共に、日米の知事の交流を深めるフォーラムの開会に当たっての御挨拶をお願いしたいと思います。

まずはアメリカ側から、サンドバル・ネバダ州知事様、お願いします。（拍手）

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

再びおはようございます。もう一度お話できるのはまた光栄なことですし、またネバダ州を御紹介できるということで、大変に光栄にこれも思っておりますが、早速ビデオを流していただけないでしょうか。

ネバダ州では現在、毎日１４０万人が仕事に出掛けます。職種は航空宇宙、防衛、ヘルスケア、ＩＴ、製造業、ロジスティクス、工業、農業、エネルギー、水力光学、そしてもちろん観光業、ゲーミングと、多岐に渡っています。その中には先の不景気以降、新たに創出された２６万の雇用も含まれています。また現在、新たに数十の住宅、企業ビル、あるいは工業団地の着工が予定されています。

ネバダは今、全米でも最も高い新規雇用創出数を達成しています。さらに５０万人のネバダ州の子供たちが毎日出掛け、技術系、医療系、専門学校あるいは特

殊学級等の充実した設備の学校に通っておりますが、そこでのカリキュラムは経済のニーズに対応し、未来の仕事を見据えたものになっています。

また今日、まさに新たに200世帯が住宅を購入していますが、その3分の1は初めて家を買う人たちです。現在19億ドルを掛け、ラスベガススタジアムが建設中ですが、年間合計6億2000万ドルの経済効果と、6000人分の新たな雇用が見込まれています。

ネバダ州では、官民協力して最先端製造業の職業訓練に当たっており、州始まって以来、最も高い生産性と、最も高い賃金を得る、最も多様性のある労働力がネバダ州には構築されています。

ブライアン・サンドバル州知事の下、州経済開発局が中心となって、州内の起業家グループ、あるいは個人の熱心な働き掛けに基づいてプログラムが推進され、ネバダ州は引き続き力強く、スピードを持ってカムバックを遂げています。

ネバダ州は子供たちの教育と家族の安全を第一に、今後とも、全米で最も早い民間雇用の伸びを達成し続けます。強い決意を持って、その精神があるからこそ、私たちは強いのだというふうに思っています。勤勉とそれから強い決意、これがまさに新たなネバダ州を構築するものになると思います。（拍手）

ありがとうございます。このようなネバダ州の状況、時間が限られているんですが、お話をさせていただけるのは、本当に誇らしいことです。新しいネバダ州を目指しているんですが、ゲーミングとツーリズムという、こういうパンフレットも持って来ました。ラスベガスに来たことがある人と、来たいと思っている人という、2種類しか人間にはいないとも言われております。

そういった中で日系企業とのパートナーシップは、素晴らしいものがあります。テスラのギガファクトリーは、もちろんパナソニックとテスラの共同で出来上がっています。3分の1しかまだ完成はしていませんが、地球上最大のプラントに完成をした時にはなる予定です。500万平方キロメートルになっています。パナソニックはネバダ州民2万5000人以上、そして8億ドル以上をギガファクトリーに投下しているということで、出来上がりますと世界の残り全ての電池生産を合計したよりもたくさんの電池が作られるということになります。

また、もう一つネバダ州では大きなプレゼンスを持っているのが、コナミゲーミングです。ラスベガスに本拠を置いてくださっていて、尊敬されているゲーミング分野のプレイヤーなんです、500人以上が雇用されています。

また、ネバダ州には3000人以上の日本国民と、それから2万2000人以上の日系アメリカ人がこのネバダを故郷にしています。また、毎年毎年200人近い日本人留学生を受け入れています。

また、輸出ですが、対日輸出が1億7430万。その中の品目としましては、コンピューターやエレクトロニクス。また、輸入ですが、日本から9億4000万、5000万ドル相当であるということで、その中には機器類、コンピューター、それから家電であるとか、化成品も入っています。

また、パートナーシップをラスベガスではNTTグループと結んでおりまして、我々としてはスマートシティを目指しているんですが、スマートなだけでは

なくて、最もスマートなスマートシティをNTTと共に目指したいというふうに思っています。

また、70億ドル以上、再生可能エネルギープロジェクトに投下をしています。年間300日以上が晴れであるということですので、ソーラー、これをとても重要視しているということです。誇りに思っています。

また、国内の6州の中で、UAVのドローンのテスト、あるいは無人車両のテスト、認定を受けた州ですし、また、初めて自動車、これグーグルカーがカーソンシティでも走ったということで、自動運転車の認可を受けたところです。私も運転させてもらったんですが、ほんとに素晴らしく、私個人もとても感動しました。

また、地球上最大のホームバイスイッチというデータセンターがあって、500万平方フィート以上になっています。また、グーグルがネバダ州の北に3000エーカー、またアップルもネバダ州にこの20億ドル以上投下をしています。ブロックチェーンテクノロジーに投資するのだということで、60万エーカー以上の土地を確認しています。

先ほど、建設中の新しいラスベガススタジアムを見ていただきました。19億ドル以上投下しています。USフットボールのフランチャイズがこちらに移転してくるということになって、ラスベガスレイダースとなる予定で、非常に今期待をしています。

また、420万人以上がラスベガスに毎年来ていただいているということで、そこでもコンベンションセンターを今作ろうとしています。

また、鉱業の領域ですが、地球上で最大の金の生産地でもあります。経済の多様化ということもしていますし、またゲーミングあるいは鉱業の領域だけではなく、いろいろなところ、また新しい経済の中でもきちんとしたポジションを取りたいと思っています。いわゆる製造業における第4番目の改革ということが言われていますが、その中でもきちんとしたポジショニングを取りたいと思っています。そうした中で鉱業はとても重要。そういう中で日本及び日系企業との協力というのが、極めて重要だと考えておりますし、また我が州の将来においても重要になっていると思います。

今回日本に、また東京に来ることができ、ネバダ州民を代表して皆様に心からこれだけの信念と、それから信頼を寄せてくださっていることに対して御礼を申し上げ、また今後共、協力体制を継続したいということを申し上げたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○司会

ありがとうございました。では続きまして、日本側から全国知事会会長である上田埼玉県知事様、御挨拶をお願いいたします。

○上田埼玉県知事

埼玉県の話をしていただきます。人口が730万、全国5位、そしてまた生

産年齢人口が62.5%で比較的若い県の一つであります。人口増加率が現在、東京に次いで二番目であります。また、経済の規模ですが、県内総生産が22兆円、企業本社の転入超過数、純増の部分が全国1位であります。どの場所にあるのかと言うと、ちょうど東京都と同じような形なんですけど、ちょうど2倍の大きさで、北側にしっかり乗っかっている感じであります。

この埼玉県は新幹線が6路線、高速道路網が6路線ということで、地理的な地政学上では大変有利な所でありますので、そういう部分では大変いろんな企業にとって、非常に便利な所だという形で定評があります。

また、実はスポーツの祭典がこのところ埼玉でたくさん行われる予定になっています。ラグビーワールドカップ2019、来年でありますけど、こちらの方も埼玉が12会場の中の一つで、ロシア対サモア、ジョージア対ウルグアイ、アルゼンチン対アメリカの3試合が、この埼玉県で行われるようになっています。アメリカの代表の試合も行われますので、ぜひアメリカの皆様にはしっかり来ていただければと思っています。前回、イングランド大会で日本がアメリカに勝ちましたが、今回の日本大会では日本対アメリカはございません。ちなみに、この写真は奇跡の大逆転劇と言われた、イングランド大会での日本がアメリカに勝った試合でございます。時々はこのようにも見ていただいて、日本も小さいけど強いぞというのを見せたいと思っています。

また、東京2020オリンピック、パラリンピックでは、埼玉県ではバスケットボールの全試合がさいたまスーパーアリーナで行われる予定であります。また、サッカーでは埼玉スタジアム2002、またゴルフ、そして射撃、パラリンピックでも射撃が会場になっております。ぜひオリンピックの観戦でも埼玉にお越しの際は、御連絡いただければ埼玉県、お酒の出荷額が全国4位でありますので、しっかりお酒でおもてなしをしたいと思っています。

埼玉県とアメリカ合衆国との関係でありますけど、1990年10月にオハイオ州と姉妹提携を行っています。特にホンダがオハイオ州に進出したという、こういう流れの中で、埼玉県にホンダの世界のマザー工場がある、こういう御縁の中でオハイオ州との縁が出来ました。

とりわけ、教育プログラム等ではフィンドレー大学との関係が強く、多くの学生がフィンドレー大学に留学したり、あるいはまたフィンドレー大学の方から日本に来ていただいたりしているところでございます。

また、前の大使でありますケネディ駐日大使等は、盆栽の聖地である埼玉県の盆栽美術館にもお越しをいただき、2014年にオハイオ州を訪問した時には、ケーシック州知事とも会談を行うことができました。こうして埼玉県とアメリカとの関係は、オハイオ州を中心に展開をしているところであります。

また、日本側ではキックマンの茂木会長が日米の中西部会の日本側議長を行っておられるところでございますけど、これに参加する機会をいただきまして、連続して出席しているうちに、もう今さら、欠席ができなくなってしまうと、とうとう14回連続出席させていただき、今年ネブラスカ州で日米中西部会が行われますけど、もう当然14回出席した以上、今さらまた欠席もできないということ

で、私、ネブラスカの方に行く予定になっております。（拍手）どうも、フォーリー副知事にはまたよろしくお願いしたいと思います。

さらに産業面で様々な交流を見ていただくところでございますが、埼玉県は先端産業を創造するプロジェクトを展開しているところでございますので、昨年、一昨年にはシリコンバレー等を見学させていただき、また、サンフランシスコ等では埼玉県の秩父市等が、埼玉県の物産を売り込んだりしているところでございます。

埼玉県という、この東京のすぐ隣の県でございます。大体鉄道、高速道路等を使えば、まずコンスタントに1時間前後で主たる都市に来ることができます。ぜひ埼玉県にお越しの時には、御連絡をいただければ、私若しくは私の代理が必ずお迎えし、御案内を申し上げるところであります。今日は余り観光のことは触れておりませんが、観光面でも東京には江戸がないと言われていますが、埼玉には小江戸川越というものがございます。蔵造りの街並みランキングでは全国3位という、大変東京に至近距離で、100年前、200年前の江戸はこんなものだったのかということを知ることができます。いずれにしても、ぜひともこういう日米間の交流の中で、埼玉県についても御理解を賜りたいと思います。以上、簡単ですが御報告申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

○司会

上田知事、ありがとうございました。続きまして、ニューメキシコ州、スザナ・マルティネス知事様、御挨拶をお願いいたします。（拍手）

○スザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事

皆さん、おはようございます。今日はこのような素晴らしい会議に御招聘いただきまして、ありがとうございます。

1か月半前なんですけど、私たちNGAのサンタフェでサマーミーティングが開かれました。非常に素晴らしいイベントでありまして、NGAが私たちのニューメキシコというのを、この非常に美しい奥さん、ニューメキシコの方を選ばれたというのは、まずお祝い申し上げたいと思います。そしてニューメキシコ州という、非常に偉大な州で皆さんをお迎えできたことを嬉しく思っておりました。

その時の会合の中で、実はこの壁をなくしている状態のティオココという構造物があるんですが、その中で応援することができたんですが、いわゆる私たちの中にある壁というのをなくそうということで、ティオココというのが、火災が起こってしまって、全てその問題がなくなってしまったというようなこともあったわけであります。

日本の知事会の会長がおっしゃったとおり、「Think globally, act locally」というのは非常に素晴らしいと思います。私もこれをやっていきたいというふうに思います。と言いますのは、国際的な社会と協力をするというのが私たちの成功にとって非常に重要です。また、知事と知事の間に関係というのも非常に重要だと思います。私たち、どうしてもグローバルに考えようとしているが、やはり口

ーカルな行動を取らなければいけないということです。

日本企業に関してお話ししますと、ニューメキシコ州ではどんどん進出しております。2014年にはアルバカーキにキヤノンが移っております。ニューメキシコで社員を雇用しています。また、ミツカンですが、ボーダーフードをデミングで買収いたしました。そして現在では400人の社員を抱えております。そして季節就労者としては、6月から11月まで、500人を雇用しています。チリソース、それから香辛料等を作っております。御存じないかもしれませんが、ニューメキシコというのはチリの首都というふうに、世界のチリの首都というふうに言われています。例えばこのライセンスプレートを見ていただきますと、そのブランドというのがニューメキシコ州でたくさん見られるわけです。

それから日本のエレクトロニクスメーカーのサムコUSAですが、アルバカーキで100人を雇っております。

また、州のレベルでも私たちはいろんなことをやっています。例えば、私たちの国際貿易局の予算というのを増加させています。また、この作業者のトレーニングプログラムということで、ジョブトレーニングインセンティブプログラムというのに投資をしております。日本企業等がニューメキシコ州に来て、いろいろなトレーニングをしておりますが、ニューメキシコ州がそういう社員の60%、最初の6か月払うという形になっています。その会社からどのようにオペレーションをすべきか、トレーニングをすべきかということを学んでいただく。そして6か月後には、雇用者が100%賃金を出すということになるわけです。しかし、州はこういった形で私たちも投資をして、皆さんが成功できるようにしているということでもあります。

また、私たち州といたしまして、幾つかの規制というのを排除いたしました。また、私の前任者は非常に厳しい規制を敷いておりました。なかなかそれによって私たちがオープンフォービジネスというふうに言えなかったわけですが、今ではこういった規制が排除されました。

また、他のアメリカの知事同様、私たちはこのような貿易赤字を何とか解消したいというふうに考えています。ですから、日本との貿易というのも、さらに力を入れていきたいと思えます。

また、私たちクロージングファンドというのを成長させています。これはどういうことかと言いますと、例えばニューメキシコにビジネスを持って来てくれるのであれば、その案件がちゃんとこのクロージングするよにということを確認するための資金です。私たちはこういったところにも投資をする。これは皆さんがニューメキシコ州の中の人員に投資をしてくれるのと同じということになります。私たちの、例えば水のシステムですとか、皆さん方の製品を動かせるように、いろいろな面で投資をしていただいていると思えます。

また、州全体のインフラにも投資をしております。水ですとか、排水ですとか、そういったインフラが含まれるわけです。ニューメキシコというのは、非常に大きな地域ですので農村地、遠隔地でもあるわけで、これまではなかなかインフラが揃っていなかったわけです。こういったところというのも、大都市と同じ

ぐらい重要であると考えています。ですから、インフラを提供していきたい。そうすることで、全てのニューメキシコの地域に投資をしていただけるようにしたいと考えています。

その経過として、2011年に私が州知事になったんですが、民間部門の雇用がこれまでになく高くなっています。また、失業率というのは3.1%まで下がっています。そして経済も毎日成長しています。フェイスブック、セーフライト、ケータープラスティック、スタンピード・ミートといったような企業が、今ではニューメキシコ州に投資をしています。

さて、日本とは高等教育の分野で協力をしております。これは非常に重要です。私たちニューメキシコ大学では、このテックトランスファーオフィスというのがありますが、日本に一人のスタッフを置いています。この二年間、日本の大学ですとか、または研究機関と関係作りをやってきております。ニューメキシコ大学というのは、空軍研究所とも協力をしております。日本の大学と協力をするという意味での協力を行っております。また、ニューメキシコ大学は大阪府立大学とも協力をしております。そうすることで、文科省の大学院生向けの助成金をスタートしています。

また、関西プロフェッショナルインターンシップアカデミーというのをスタートしています。これは日本の科学イノベーションのコンサルタントと協力したものです。

ということで、私たちはエネルギーが非常にリッチな州でもあります。石油、ガス、また風力発電等、いろいろな発電を行っております。

25年間、いろいろな政策というのは変わっていなかったわけですが、エネルギーの政策をここに来て刷新いたしました。現在、近代を反映したようなものにするということで、全てのこういった風力ですとか、太陽光ですとか、また石油、そしてエレンジ等も非常に豊富です。そして私たちにとって、こういった余っているエネルギー、他の国が必要なものというのを提供していきたい。そういった意味で、日本のリーダーと協力することによって、私たちが豊かにここに持っているエレンジというのを提供できるようにしていきたい。日本の友人、そして知事、そしてリーダーの人たちと、こういったものを提供することで国家安全保障を確実にしていくといったことも考えているわけです。

ニューメキシコ州の人々の代表というのを決して忘れてはいけません。そして、こういった協力ができるのか。政府の間で協力をし、そしてこういった非常に重要な立場にいる私たちというのが、どのようにすれば貿易ができるのか。意味のあることができるのか。持続、可能性ができるのかということを考えていきたいと思います。

今日はこのようなフォーラムにお招きいただきまして、ありがとうございました。（拍手）

○司会

マルティネス知事、ありがとうございました。では次に奈良県の荒井正吾様、

御挨拶をお願いいたします。荒井奈良県知事、よろしくお願いいたします。

○荒井奈良県知事

ありがとうございます。アメリカの州知事の皆様方、そして御参加の皆様方、本日は奈良県につきまして、その特徴等を御紹介する機会をいただきまして、非常に嬉しく存じ上げます。

では、最初のスライドをお願いいたします。まず、奈良というのは日本の天皇制、つまり皇室制度の誕生の地でございます。日本の初代天皇、神武天皇が即位されたのが奈良でした。3000年前ほど昔のことです。現天皇はその後、脈々と続く天皇制の中で、第125代の天皇となります。この125代に渡る天皇のうち、最初の50代が奈良地域に住まわれました。

左側の写真、これは聖武天皇の肖像画です。そして真ん中、右側、これが古代天皇の陵墓、つまり古墳です。奈良地域に点在しております。

奈良というのは、日本建国の地と言われています。奈良政権は国家統一のために、中国の法制度を導入いたしました。そして702年、唐に派遣された遣唐使の使節が独立国家としての認定と、それから日本という国号、国の呼び名の使用を願い出て、それが許されました。

国号、にっぽんという国号、これは中国語では当時、シーパンクオーと発音していたそうです。その後マルコポーロ、旅行家と作家として有名ですが、彼が極東のこの島国をジパングと呼びました。それがジャパンの由来だそうです。

そして天皇は奈良を710年、首都に制定しました。遷都したわけです。そして8年前、私どもは平城遷都の1300年記念を御祝いしたところでございます。左側の写真、これは復元された平城宮大極殿で、天皇がまつりごとを行った場所と言われています。そして右側がこの平城宮へのメインゲートである朱雀門です。これも元の形どおりに復元されております。

次に仏教について、次のページになりますが、仏教は神道と並び、日本では主要な宗教となっております。仏教は我々の生活に深く浸透していて、日本人は仏教が外来の宗教だということを忘れがちです。

仏教が奈良に伝わったのは538年、6世紀のことです。仏教の発祥の地は北インド、紀元前6世紀ぐらいと言われています。そして1000年かけて仏教が中国、韓国を通して、アジアの極東の島に伝来しました。奈良には6世紀から8世紀に彫られたとされる仏像がたくさんございます。そして754年に、当時の天皇が鑑真から受戒したとされています。

日本古来の神道も非常に重要な宗教でございます。つまり、外来の宗教、それから日本古来の宗教、二つの宗教が今まで平和裏に共存してきたのが日本でございます。

日本が独立国家として認められたのは、世界各地と繋がっていたからと言われています。奈良はまさにシルクロードの東の果て、端にあります。そして遠い国々、例えばイランやアフガニスタン、そしてインド等から到来した貴重な伝来品が奈良には保存されています。奈良は非常によい倉庫、保存庫と言えましょ

う。こういった貴重な財宝を、もうこれだけ長い期間にわたって守り続けてきました。１０００年以上にわたって守り続けてきたということは、素晴らしいことです。

よく中国の共産党の方に申し上げるのですが、あなたの国では政権が３００年毎に変わりますよねと。ですから、共産党の重要文書を保管したければ、ぜひ奈良に預けてくださいと。少なくともあと１０００年はちゃんと保管しますよと申し上げることがあります。

最後のページになりますが、申し上げましたとおり、世界と通じる、交流するということは、国の発展には不可欠でございます。５０年前、私はアメリカの大学で教育を受けました。その素晴らしい教育のお陰で、私は日本の海上保安庁の長官として働く機会もいただきましたし、それから国会の参議院議員、そして出身県の知事にもなれました。アメリカでしたら、このキャリアを持ってすれば大統領の席も狙えるかもしれませんが、私は今の仕事に非常に満足しております。

シラキュース大学で学んだアメリカの行政学の教育、本当に感謝しています。左側がヒッピースタイルの当時の私の写真です。髪もふさふさ、顎ひげもあって口ひげもありました。信じられないですね。右側、これが同じ人物。５０年後の姿でございます。

御清聴ありがとうございました。アメリカで教育を受ける機会を頂いたことに感謝申し上げます。（拍手）

○司会

荒井知事、ありがとうございました。次は平井鳥取県知事様、御挨拶をお願いいたします。（拍手）

○平井鳥取県知事

アメリカからご参加の皆様、サンドバル知事、マルティネス知事、そしてフォーリー副知事、そしてロハス長官、そしてネバダ州のファーストレディ、それから杉山大使、ありがとうございます。皆さんと一緒にこの部屋にいられるというのは、私にとっては夢のようなものであります。ようやくここまで来たという気がしております。本当にありがとうございます。

それでは、私自身と鳥取県を紹介したいと思います。今回、初めてこのように鳥取県の紹介をするわけです。というのは、常に日本の全国知事会の代表という形で参加しておりました。鳥取県の御紹介は初めてということになります。

こちらが私たちの県の蟹であります。鳥取県という名前ですが、鳥取という意味ですが、これは鳥を取るという意味であります。しかし、この蟹は私たちの、鳥取県の名産物の一つということになるわけです。ですから、名前を変えようかというふうに、実は思っております。鳥を取る、という意味から、蟹を取る、クラブキャッチングという形で、明日から変えようかというふうに思っております。約束いたします。東京でセシモニーをしたいというふうに考えております。

さて、有名なのは鳥取砂丘です。ネバダ州と比べるととても小さいんですけど、またはニューメキシコと比べても小さいんですが、一番、日本では知られているのが鳥取砂丘であります。

私たち、とても有名なんです。この鳥取砂丘、有名なんです、もう一つの意味で私たちはとてもとても有名なんです。なぜかと言いますと、スターバックスが来る最後の県だったわけです。スターバックスを日本ではスタバというふうに呼んでいます。

私たち、砂丘のことを砂場というふうに呼んでいます。ですから、このスターバックスが私たちの県にはなかったわけですが、でもスタバはないけど砂場はあるよというふうに言っていました。このジョークで、新しいコーヒーショップのチェーンも出来たんですが、今はスターバックスも3店出店しております。ただ、すなばコーヒーショップは10のお店を持っております。

鳥取県というのは、このように日本の西側に位置しております。私たち、国際的なルートも幾つかあります。フェリーのルートもあります。韓国と東海と繋がっております。それからウラジオストクとも繋がっております。これ非常に鳥取県のユニークなところです。

また、羽田からも飛行機で1時間で鳥取に着きます。最近ですが、外国人の訪日客数というのがどんどん増えております。なぜかと言うと、非常に美しい景観があるということ、浦富海岸ですが、こちらはユネスコの世界ジオパークに認定されています。これは砂丘と一緒に認定をされております。それから大山があります。これは私たちの象徴的な山であるわけですが、この大山にはいろいろな顔があります。富士山と同じなんです、アルプスのようにも見えます。この上に登りますと、非常に美しい景観を見ることができます。日本海を見渡せます。この大山に関しては、今フェスティバルをしております、眞子様も今月いらっしゃいました。

それから私たちのこの梨というのも非常に有名です。この新しい種なんです、こちらは「新甘泉」という名前です。なぜかと言うと、新幹線が私たちの県にはないんです。それから蟹ですね。蟹も私たちの味覚の一つです。

それからバーモント州との関係、その他の幾つかの地域との友好関係があります。また、大学ですが、鳥取大学はネバダ大学と関係があり、またカリフォルニア、バーモント等とのこういった友好関係があります。

それから産業ですが、日本セラミックスですが、70%のシェアを持っているセンサーのデバイスを作っています。また、ダイキンですが、国際的な人材組織というのがあります。そしてこちらが三つのこの拠点を持っています。このような様々な産物があるということです。

また、最近バーモント州と覚書を交わしております。ニューメキシコ州で開かれたNGAの会合の縁になりますが、こういった新しい関係もございます。ぜひまた鳥取に来ていただきまして、また違う日本というのを味わっていただきたいと思います。（拍手）

○司会

平井知事、ありがとうございました。続きまして、フォーリーネブラスカ州副知事様、御挨拶をお願いいたします。フォーリー副知事、お願いいたします。

（拍手）

○マイク・フォーリー ネブラスカ州副知事

皆様、おはようございます。また日本に来ることができまして、非常に嬉しく思っています。2回目の来日になります。リケット知事は2回、既に代表団を送っています。また、何回も来日できることを楽しみにしています。

ネブラスカ州、御存じないかもしれませんが、アメリカの真ん中にあります。アメリカの地図を見ても、ネブラスカ州はまさに真ん中にあります。州都はリンカーンです。ネブラスカ大学のコンハスカーズがあります。

土曜日からフットボールが始まるわけですが、ネブラスカの人たちはフットボールが大好きです。しかしながら、最大の都市はオマハです。オマハはもちろん、ウォーレン・バフェットが、バークシャーハサウェイの本拠を置いている所です。毎年日本からたくさんの方たちがバークシャーハサウェイのアニジュアル・ミーティングにいらっしゃいます。

ネブラスカは農業州です。これはまさに経済の屋台骨となっています。経済の20%は5万軒の農家が作り上げているわけです。つまり、食品加工というのは非常に重要なビジネスであるということです。メインビジネスなんですけども、その他にも成功しているビジネスとしては、製造業、バイオテクノロジー、金融保険、医療、IT、建設、そして運輸というものがあります。

ネブラスカ州は今、牛肉生産1位となっています。テキサスを追い越したわけです。200万人の人たちが授受しています。まあ、しかしながら牛というのはどんどんと動いて行くわけです。エタノールでは2位、そしてコーンでは3位、そして大豆輸出が5位となっています。

日本はネブラスカ州にとって、非常に重要な国です。実際、日本はネブラスカにとって、最大の直接投資国となっています。大きなサクセスストーリーとして、川崎重工さんを挙げるができます。1974年にネブラスカに拠点を設立されました。候補地はたくさんあったわけですが、いろいろリサーチをされました。川崎に対して、様々な候補地が挙がったわけですが、その中でネブラスカ州リンカーンを選んだわけです。2輪車、ジェットスキー、それから地下鉄車両、その他様々な車を作っています。ワシントンD. C. の地下鉄の地下鉄車両は、全てネブラスカ州リンカーンで作られ、そしてワシントンD. C. に送られています。

川崎重工がネブラスカ州リンカーンをなぜ選んだのかと言いますと、幾つかの理由があります。まず、ネブラスカ州の人々は非常に勤勉な人たちです。教育レベルも高く、そして家族を大事にします。日本の人たちと同じです。IAT、これは東西を結んでいるわけですが、これがネブラスカ州の真ん中を通っています。それからインターステート29、これは南北を結んでいるわけですが、これ

はネブラスカと隣接した所を通っていますので、運輸のハブと言えることができるわけです。

さらにまた労働権法が制定されておりますので、ビジネスのコストは低くなっています。また、生活の質も高いですし、また、生活コストも非常に低く安定しています。州政府も、また市町村も非常にビジネス関係を構築することに熱心です。

1974年に川崎重工が初めてネブラスカに拠点を設立したわけですが、その後、ジェットスキーですとか、地下鉄も作るようになっていきます。そして新たなラインとして、航空機部品をボーイングに提供するようになっていきます。ネブラスカ州リンカーンで、貨物機のドアを作っています。

川崎重工以外にも幾つかの主要な日本企業が進出しています。例えばキューピー、丸紅、伊藤忠、NTT、エスフーズ、マルハニチロ、都築電気、ヤスフク、その他たくさんの日本の企業が進出しています。さらに4つの主要なフォーチュン500の会社がネブラスカ州に本拠を置いています。バークシャーハサウェイ、ミューチュアル・オブ・オマハ、ユニオンパシフィック、そしてピーターキューイットという建設会社です。

日本は、ネブラスカ製品輸入国としては第4位となっています。農業製品を輸入しています。2016年には、日本の人たちは10億ドル以上のネブラスカの農産物を輸入しています。これについては非常に感謝をしています。これをさらに拡大できればと思っています。農業州ですので、私どもにとって日本との関係は非常に重要です。牛肉、豚肉、卵の最大輸出先となっています。

この2年間を振り返ってみますと、日本に対する牛肉輸出は26%増えています。豚肉輸出は46%増えています。これは非常に大きな成長で、非常に感謝しています。日本の人たちはネブラスカの農産物を享受していただいています。勤勉な農家の産物を享受していただいています。

日本はネブラスカの最大投資国となっていて、44億ドル以上を2010年以降だけで州内に投資しています。今、ネブラスカに投資している日本企業は35社となっています。合わせて9400人の勤勉なネブラスカの人たちを雇っていただいています。

3年前、通商ミッションに私も来ておりますし、リケッツ知事は昨年も含めて2回来日しています。今年の5月にも経団連の方々が来ています。さらにまた兵庫県の代表団が先月いらしていただいたばかりです。リケッツ、井戸、両知事の間で兵庫県との関係強化の声明を締結しています。2週間後には、ネブラスカで日米中西部会50周年会議を開きます。9月9日から11日まで、オマハで開かれます。たくさんの日本からの人々を迎えたいと思っています。本日御出席の上田知事をはじめ、たくさんの知事、副知事の方を迎えたいと思います。ぜひ政治、あるいはビジネスのリーダーの方々、日米中西部会50周年会議にお越しください。リケッツ知事も私も、オマハで皆さんをホストするのを楽しみにしています。

皆様、ありがとうございます。また皆さんにお会いすることができまして、来

日することが出来まして非常に嬉しく思っています。（拍手）

○司会

フォーリー副知事、ありがとうございました。続きまして、岡山県知事、伊原木隆太様に御挨拶をお願いしたいと思います。（拍手）

○伊原木岡山県知事

皆様、おはようございます。岡山県知事をしております、伊原木隆太でございます。皆様にお会いできて大変に光栄です。

私が知事を務める岡山県というところは、雨が降らない日が年間277日、もちろんネバダ州には及びませんが、日本では晴れている日が最も多い、晴れの国と呼ばれています。とても住みやすい県であるという状況だったのですが、去る7月に豪雨災害に見舞われまして、洪水等により県内で60人を超える方が命を落としてしまいました。また、住む家を失った方も多くいらっしゃいます。私も目下、復興に向け最大限の力を注いでいるところであります。ウィリアム・ハガティ駐日米国大使閣下にはお見舞いの気持ちを表明いただき、支援を実施していただき、心から感謝しております。

それでは美しい景観、豊かな歴史文化等、岡山の様々な魅力をお伝えする映像と共に、岡山について、また私個人のアメリカとの御縁について、お話したいと思います。

まず簡単に岡山県について御紹介させていただきたいと思います。県の北部は山地と盆地で構成されていて、中部は丘陵地、南部は穏やかで島が多く、美しさに恵まれた瀬戸内海を望む平野で構成されています。人口は現在190万人。アメリカのニューメキシコ州よりも少し少ないぐらいの人口です。

この映像の中で登場する岡山の後楽園は、日本三名園の一つで、300年前に大名庭園ということで作られております。倉敷美観地区は、伝統的な日本建築の美しさを残しております。

岡山県生まれの偉人である岸田吟香は、アメリカ人宣教師ハップバーンと出会い、彼を手伝い、1867年に我が国で初となる和英辞書の制作に貢献しました。岡山県はアメリカの特定の地域と友好提携は結んでおりませんが、県内の7つの市が米国の9つの地域と友好提携を結んでいます。今日もニューメキシコ、グアムの代表の方がいらっしゃっておりますが、津山市はニューメキシコ州のサンタフェ市と、それから岡山市はグアム準州と交流を深めております。市民がお互いの市を訪問して親交を温める等、友好交流を続けております。

私自身ですが、語学留学で1年、ビジネススクールへの留学で2年、合計で3年間アメリカに滞在いたしました。また、米国資本の経営コンサルティング会社で3年間勤務したことがあります。私にとってアメリカは非常に親しみを感じる国で、とても尊敬をしている国でもあります。

本日この知事フォーラムにおいて、州知事、副知事の皆様、またアメリカ合衆国関係者の皆様と交流を深めることを、とても楽しみにしています。美しい景観

や歴史文化、温泉にグルメと、魅力ある岡山県ですが、最後まで映像を見ていただくには時間がないので、次に進みたいと思います。

今回のフォーラムのプログラムに教育に関するテーマが含まれておりますが、私も知事として最も力を入れているテーマが教育です。現在、特に力を入れているのがグローバル人材の育成ということで、2016年5月に本県で開催されましたG7教育大臣会合では、G7各国が連携して教育のグローバル化を進めていくことが確認されました。また、昨年10月には、駐大阪・神戸米国総領事館との共催で、留学促進フェアを開催いたしました。アメリカの大学関係者に参加いただき、留学相談を実施いただき、感謝しています。この取り組みに関しましては、次のセッションで報告いたします。今回のフォーラムが、日米知事の間で教育のグローバル化について相互理解を一層深め、今後の留学促進、青少年の交流活性化に繋がることを心より願っております。

最後に、グローバリズムが進展する中、良好な日米関係を築き、交流を活性化させることは、ますます重要であると考えております。今回のフォーラムはそういう意味で、日米両国間の絆をさらに強める重要な契機になると思います。（拍手）

○司会

伊原木知事、ありがとうございました。では続きまして、湯崎広島県知事様、御挨拶をお願いいたします。（拍手）

○湯崎広島県知事

皆様、おはようございます。サンドバル知事、令夫人、マルティネス知事、フォーリー副知事、ロハスグアム島経済開発庁長官、その他アメリカの代表の方々、ようこそお越しくださいました。私どもの友情に感謝をします。

日米関係は随分長い歴史を持っています。両国政府の努力のみならず、太平洋の両岸から多くの草の根の人々、企業、慈善団体、そして地方政府の努力あつてのことです。私自身、その絆を構築する一部を担っていました。一年間、交換留学生としてシエラ・ネバダ山脈の麓の果樹園・牧場付近で過ごしました。また、アメリカの大学院で伊原木知事と一緒にMBAを取っていました。伊原木知事はMBA〔経営学修士〕なんですが、私のはマスターオブバーベキューアーツの略と言えます。

私自身は経済産業省でも仕事をしていました。そこでは米州課の課長補佐をしていました。アメリカと多くの貿易投資関係、両国間の貿易投資関係を担当していました。今、その職にないということは、神に感謝しなければならないと思っています。私はその後、ブロードバンドの電気通信会社を設立しました。そしてその会社は戦略的な提携を、アメリカの地域キャリアと結んだわけです。1300万ドルの投資を受けました。そしてその技術を日本に投入したわけです。家族、学友、先生方、大使館の友人の方々、さらにアメリカのビジネス上の友人、あるいはパートナーの方々もいらっしゃいます。家族が一番大好きなショッピング

グ先は広島のコストコで、恐らくネブラスカ州からの牛肉を買って、バーベキューをするということかと思います。

広島は非常に深く濃い、人的繋がりをアメリカと持っています。1885年に11万人の移民が太平洋を渡って、アメリカに行きました。広島から行ったわけです。現在、16の広島県人会がハワイ、カリフォルニア、ワシントン、オレゴン、コロラド、イリノイ、そしてユタにあります。移民とその子孫が県人会のメンバーとなっていて、広島と様々な州や地域の間の友情の架け橋となっています。

広島は姉妹関係をハワイ州との間に1997年以降持っています。しかしながら、その両者の結び付きは1885年の一世の移民から始まっているわけです。広島からの移民は、特定のハワイの地域で非常に多くなっています。東京の標準語ではなくて広島弁が、そういった地域では今でも公式な日本語となっています。

では広島についてですが、ご存じの通り特別な歴史を持っています。原爆投下後、広島は市民の勤勉さで、さらにまた国際社会の寛容な支援をもって復活をしました。周りを豊かな自然に囲まれ、近代都市として生まれ変わったわけです。現在は平和を希求する人々の集う場所となっています。また、多くの国際会議を開催しています。最近ではG7の外相会議が開かれています。

自然と都市の共存というのが、この広島県のブランド価値となっています。広島市の人口は120万人となっています。緑の森、なだらかな山々、そして清らかなせせらぎ、そして陽光を注ぐ穏やかな瀬戸内海に恵まれています。

緯度はラスベガスと同じぐらいですが、驚くことに天然雪のスキー場がたくさんあります。長いコースでは1.5マイル、そして中心部から1時間という所に立地しています。

気候も様々で、農業に適しています。特産品としては牡蠣、レモン、林檎、その他の陸と海の産物があります。お好み焼きが広島のソウルフードです。失礼、こちらがお好み焼きです。

また、アメリカとのビジネス関係も非常に緊密ですので、ちょっとお話をさせていただきます。マツダの本社は広島にあります。アメリカでミアータのファンはたくさんいると理解しています。現在、アラバマ州に16億ドルを投資して、30万台の車を作るということです。トヨタと合併ということですが、4000人分の雇用を生み出します。マイクロテクノロジー、これは主要な半導体の会社であって、本社はアイダホです。日本のエルピーダメモリーを買収しました。日本でDRAM（ディーラム）も作っています。コベルコは日本の大手のメーカーで、油圧ショベルを売っています。アメリカの本社はテキサス州ケイティにあり、サウスカロライナ州に新しい生産拠点を設立しました。ダイソーは世界発の100円ショップを作った会社で、アメリカで66店舗を持っています。カルビーは日本でスナックフードの会社として1位となっています。アメリカでも操業しています。フリトレーがカルビーの20%の株を持っています。モルテンやミカサという有名なブランドもあります。バスケットボール、バレーボール、サッ

カーボールを作ってしまして、国際スポーツイベントで使われています。

また、アメリカでビジネスネットワークイベントも行っていることから、ビジネスマッチングの機会が両国の間で生み出されています。こちらはFogHorn Systems社というカルフォルニアの会社と、エネコムという広島の会社がパートナーシップを組んだ時の写真です。

将来の協力関係についてですが、新しい公立学校、広島グローバルアカデミー、広島叡智学園が来年開校します。こちらは公立の全寮制の学校で、国際的なバカロレアのプログラムを提供します。グローバルリーダーを育てることを目的としています。批判的思考、さらにまた様々なバックランドを持つ人たちと解決策を見い出せる人たちを育成しようということです。学生の3分の1は日本人以外ということですので、アメリカからの学生さんも歓迎したいと思っています。

また、新しい生産性革命を推し進めるということで、AI、IoT、ビッグデータという新しい技術を使うソリューションを開発していきます。そのためにサンドボックスプロジェクトを実施していきます。新しいソリューションを観光業、メディカルサービス、医療サービス、製造業、農業、スマートシティ、その他の分野で実験をしていきたいと思っています。アメリカの会社の参加も歓迎したいと思います。

昨年、26万6000人のアメリカからの来訪者がありました。これは広島を訪問した外国人観光客としては（国別で）最大のシェアを占めています。ぜひ皆さんと広島でお会いしたいと思っています。ありがとうございます。（拍手）

○司会

湯崎知事、ありがとうございました。最後にロハスグアム島経済開発庁長官様、御挨拶お願いいたします。（拍手）

○ジェイ・ロハスグアム島経済開発庁長官

皆様、おはようございます。よろしく願いいたします。カルボ海軍知事から皆様によろしくと、ぜひ申し伝えるようにというふうに仰せつかっています。来られなくて残念であると。また特に沖縄県の翁長知事が亡くなったことに対してお悔やみを伝えてほしいということで、実は非常に近い環境、米海軍の基地を沖縄からグアムに移転をさせるという辺りの話し合いをやってきたということで、特に海兵隊の移転というところでは議論を進めていたということです。

州知事、また県知事の皆様方がこのように一堂に会する日米知事フォーラムにお招きいただきまして、心から御礼を申し上げたいと思います。日本とグアムの環境を考えますと、改めてこのグアムの紹介を皆様にする必要は、日本の方々にはないかと思います。グアムと言えば台風が発生する地域ということで、日本ではよく知られているというふうに思っています。どのような州かということについて、もう少しお話をすることによって、よりフレキシブルな形でこのグアムということを考えていただければというふうに思ってお話したいと思いますし、また、アジア各国の協力強化ということでも、少し御紹介したいと思います。

グアムというのは非常に小さいです。東京の4分の1の面積しかありません。また、アジアに余りにも近いので、アジアにおけるアメリカだというふうに思っています。2時間半から4時間ぐらいの間に、主なアジアの都市にはほとんど到達できます。だからこそ、日本や韓国の方々が渡航先に、あるいは観光先を選んでくださっているんだと思います。おっしゃるとおり、この観光業というのが最大ということで、もちろんバグーンのいろいろな建設業にも各国からの参加があるわけです。1990年ぐらいから本格的な日本からの投資がありました。日本の各地から非常に大きな投資をいただいているということで、もう現在10億ドル以上です。

グアムには100万人以上の日本からの渡航客があった時期もあります。そもそも人口がいまないので、島民の数よりも10倍ぐらいのこのツーリストがいるというふうに聞いていただければ、これは大きいなというのはお分かりになると思います。これが伸びておりますので、さらにホテルの客室が足りないということです。ぜひ海外からの投資、日本からの投資も、ホテルの客室をやはり増やしていきたいということが基本ですが、現在考えています。

そういう海外からの観光客のビジネスを目指しまして、我々としてはマーケティングもやっています。日本の雑誌でも紹介されていますし、いろいろなショーも、あるいは展示会もやっています。マーケティングでこういう販売促進材料が使われているという例を見ているんですが、読んでいただければ、どのような魅力をグアムが提供できているのか、お分かりいただけるのではないかと思います。

今週、今日も含めていろいろな方とお目に掛かることができますと思いますので、その折にはもっと細かいお話をさせていただければと思います。アジアにおけるアメリカであるところのグアム、いろいろなものを提供できると思います。これが最新のキャンペーン用のビデオです。

サンドバル知事、ハネムーンを予定されているようでしたら、グアムは最適だと思います。

ありがとうございました。（拍手）

○司会

ロハス長官、ありがとうございました。これでオープニングセレモニーを終了いたします。御参加どうもありがとうございました。

それでは、ここで昼食に入りたいと思います。ザ・メイン16階にございます、「LAPIS1」が、昼食会場となりますので、御移動をお願いいたします。

再開は14時を予定しておりますので、お時間になりましたら、この場所に御参集くださるようお願いいたします。

御使用になった同時通訳レシーバーですが、座席の上に置いて御退席ください。よろしくお願いいたします。

2. 知事公開セッション

【日 時】平成30年8月27日(月) 14:00～16:00

【場 所】ホテルニューオータニ東京 ザ・メイン宴会場階「芙蓉の間」

【参加者】（日本側）

上田 清司	全国知事会会長（埼玉県知事）
大井川 和彦	茨城県知事
荒井 正吾	奈良県知事
平井 伸治	鳥取県知事
伊原木 隆太	岡山県知事

（米国側）

ブライアン・サンドバル	ネバダ州知事（全米知事会前会長）
マット・ベビン	ケンタッキー州知事
スザナ・マルティネス	ニューメキシコ州知事
マイク・フォーリー	ネブラスカ州副知事
ジェイ・ロハス	グアム島経済開発庁長官

テーマ「新産業創出と国際投資促進における地方政府の役割」

（1）開会

○司会

皆様、日米知事フォーラム知事公開セッションを始めます。このセッションのテーマは「新産業創出と国際投資促進における地方政府の役割」というものです。各知事の皆様に、このテーマについての意見を交換していただきます。まず進行役ですけれども、鳥取県知事平井伸治様に開会の辞をお願いします。平井知事、お願いします。

○進行（平井鳥取県知事）

ありがとうございます。平井伸治と申します。鳥取県知事をしております。皆様、東京にお越しいただきまして、ありがとうございます。皆さんの御支援をもってやっと実現しました。ありがとうございます。

ケンタッキー州のベビン知事が羽田空港に着陸されたとお聞きしましたので、間もなくいらっしゃると思います。後で知事にも参加していただきますけれども、このセッション、今から始めさせていただきます。

昼食ですけれども、日本のお弁当は楽しんでいただけましたでしょうか。ありがとうございます。上田会長のお陰で私どものランチボックス、弁当箱は非常に豪華なものでした。皆さん、東京オリンピック、2020年のオリンピックのス

タジアムが非常によく見えたかと思います。非常に素晴らしい大会を二年後に開催することができると思っています。しかし、別のオリンピック大会をここで開きたいと思います。口を使ってプロモーションをする、主張するというのが私たちの仕事です。私どものオリンピックは口頭オリンピックと言えると思います。東京のここで開かれますオリンピック、ぜひ楽しんでください。

いずれにしても、まず最初に産業の話、また新しい技術の促進、あるいは最先端産業の促進について話をしていきたいと思っています。雇用を創出しなければならない、州民、県民の幸福を促進しなければならないという、共通の課題を抱えていますので、その視点からこの議論を、今日の午後はしていきたいと思っています。

まず最初に、アメリカのサンドバル知事、元全米知事会の会長でいらっしゃいます。

（２）知事意見発表

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

平井知事、御紹介どうもありがとうございます。また再びこのフォーラムで参加、発言をする機会をいただきまして、ありがとうございます。同僚の日米知事一緒に参加をします。今日のこの機会をいただきまして、私の州、地方自治体、地方行政のレベルで他の地方とどのような連携が出来ているのか、出来ていくのかということ議論するということですので、ネバダの宣伝をしたいと思っています。

年間４インチしか降雨量がないネバダ州というのは、最も乾燥した、このぐらいいしか年間に降らないという。しかし国の中で最も成長率が今高い、そういうところです。ということになると、水というのがラスベガスにおいては成長が今後継続できるかどうか、極めて重要な要因になっています。

ラスベガスの下水道、上水道というのは非常に効率的で、３０年前は人口が半分だったんですけども、同じ水の量で、全米で最も急成長を遂げている、人口が伸びている中で対応できているわけです。いわゆる送出分というのが５％未満であるということで、素晴らしいリサイクルが、水利用に関してできているということです。

早速、ネバダの御紹介をしたいと思います。ネバダグローバルは、スタートしたばかりです。全世界トレードミッションということで、１５回ぐらい参加できたんですけども、これはアメリカで最も大きい水関係の科学者のグループ。それからもう一つ、ウォータースタートというグループもあります。ネバダ州南部の水道当局が中心になりまして、世界中水のニーズという意味で、共通した課題を抱えているところと協力しています。イスラエルとそれから南アフリカのケープタウン、現在の最悪な水不足、それからオーストラリアというようなところ。それぞれの国のそれぞれの場所の代表者にきていただきまして、私たちの水テクノロジーを学んでいただくというのが、このネバダウォーターです。

それに加えて、イノベーション会社を中心になって、ラスベガスにも来ていた

だいて、いろいろ検証をして、成功したならばスタートアップということで、ネバダ州で企業として立ち上げてもらう。これが非常に成功しています。クィーンズランドで50万ドル規模の、それからガーナにも2週間ぐらい前に出掛けて行きました。そこでの協力体制、我が州が非常に乾燥しているからこそ、世界で最も優れた水関係の工学技術を持っているということで、ネバダグローバルの一つの例でありますけれども、推進しています。

それからもう一つ、先ほども言いましたとおり、この航空システム。これは、ドローンですけれども、これをこのテストする許可をもらっている6つの州のうちの一つです。86%の面積が実は連邦の土地である。つまり開発はできないということになっています。ということは、逆に言うと、州の中ではこのUAVという無人航空システムをテストする十分なスペースがあるわけです。なのでUAV、ドローン、これの検証テストのために使っていただける。パイプラインの、例えば検査であるとか、ありとあらゆる応用性があると思います。ネバダ州が初めて行った検査というのは、都市部のこの荷物の輸送です。日本ではセブンイレブンが非常に大きい。実はアメリカのセブンイレブンよりも日本のセブンイレブンの方が大きいということのようですけれども、ドローンでネバダ州が初めてこのピーナッツであるとか、あるいはそういうものを、宅配をしたというそういう例が出ております。

それからもう一つお話をしたいのが、ゲーミングという領域です。ラスベガスのスライド、先ほども御覧いただきましたが、ラスベガスを御存じない方はないと思います。エンターテインメントの中心地。ツーリズム、それから食べ物もそうだし、ゲーミングの中心地です。訪れる先になるだけではなくて、世界のゲーミングのイノベーションの中心地になりたいというふうに思っていて、世界最大のゲーミング関連の企業がネバダに本拠を置いている。イノベーションということで、アリストクラットというところもありますし、それからインズワンスもサイエンティフィックゲームズも、コナミゲーミングも、今朝お話をしました、世界本社をネバダ州に置いているということです。

グローバルイゼーションに伴って、ゲーミングというのが全世界的に広がっている。日本ももちろん、最近このカジノ実施法案が通過をしたというふうに聞いております。最高のゲーミング関連のテクノロジーを導入したいと考えている国々、あるいは地方行政、あるいはどういう規制の在り方がゲーミングには一番いいのかということも学びたいと、世界中から来てくださっています。

ネバダでは大学と、つまり産学官の関係性が非常に近いということを大変に誇りに思っています。イノベーションスタートと呼んでいるんですけれども、小さい企業が立ち上がりようとしている時に、狭いですがスペースを無料で貸し出しております。それからネバダブートキャンプというのをやっています、ネバダで起業したいという場合には、どういう規制があるのか、どういうふうに新しい州に事業を展開する時にやったらいいのかというようなことを享受したりするわけです。

5分間しかないので、成功例を少し御紹介したいと思いますけれども、ポーラ

ンドへの使節団を率いて2回行きました。その結果、ポーランドのスタートアップが数社、ネバダに来てくださって、今伸びている。スペインにもトレードミッションを率いた、その結果バスク地方のスタートアップがネバダ州で立ち上がってきているということがあります。

見ていただいている写真は、ポーランドの首相と握手をしているところなんですけれども、この国とそれから私どもの州の間で締結をしましたので、ポーランドの企業が次々に我々のところへ来てくださっているということです。日本の皆さんともそういったことをやりたい。ネバダグローバルを使ってくださることによって、アメリカでの事業の本拠をネバダに置いていただけるようにしたいというふうに思っています。時間限られておりますが、ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

サンドバル知事、ありがとうございます。ゲーミング、その技術の非常に素晴らしい例でした。UAVを使うという話もありました。ブートキャンプにも言及されましたが、非常に刺激的なアイデアだと思います。ありがとうございました。

それでは次に全国知事会会長の上田知事お願いいたします。

○上田埼玉県知事

ありがとうございます。サンドバル知事にはほんとに刺激的なネバダグローバルの話、ありがとうございました。とても参考になりました。ネバダというこの一つのローカルを起点にして、それぞれ特色のあるものを活かしていこうという試みが、グローバルで展開されていること、よく理解しました。

埼玉県は東京のすぐ近くということで、ある意味では東京のパワフルな部分をしっかり汲み取ることができるという好条件にあります。また面積も東京の2倍、また地理的な環境、また交通の便等も考えて、やはり今後、先端産業に力を入れていくべきだということで、これからナノカーボン、医療イノベーション、ロボット、新エネルギー、航空宇宙の5分野に力を入れて展開しています。基本的な枠組みはアライアンス、いろいろなものと連携できるかということです。

例えば埼玉県でこの先端産業のプロジェクト等をピックアップする人材に限りがありますので、新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）、あるいは産業技術総合研究所との協定を結んで、そうした高度な技術者や研究者集団の目利き力みたいなものを活用する。あるいはまた金融機関や大学等の資金力や研究技術能力を確保する。そういうアライアンスをしっかりと打ち込みながら、これまでやる気のある企業に66件一定程度の資金を提供しております。

その中から45件、製品化に成功しております。なかんずく、一つ二つ例を御紹介しますが、マグネシウム蓄電池。これは一般的には、リチウムイオン電池が今のところ主流でありますけれども、若干このリチウムイオン電池の欠陥があります。発火しやすいということ。あるいはレアメタルということで、値段が高いこと。そして容量が小さいこと。それと比べて、このマグネシウムの蓄電池が発

火の危険性が少ない。原料のマグネシウムが事実上、無限にある。しかも極めて安価であると。そして2倍を超える容量の可能性を持つということで、既に一般のリチウムイオン電池と同じような大きさに、もう既に成功しています。今、実用化に向けて、様々な実験をやっているところです。多分にこれは小さくて容量が大きいので、ウェアラブル関係の電池に活用ができる。また、補聴器等、非常に使用範囲が広いと思っております。

もう一つの事例では、県内企業が開発したiPS細胞分化誘導培養装置であります。細胞移植治療や創薬等で活用できるiPS細胞を大量かつ均一均等に培養できるもので、昨年6月に販売を開始して、世界中の医療関係者から様々なこの要請、または取引が始まっているところでございます。

さらに埼玉県は、国際的な企業誘致の取り組みも含めたチャンスメーカー埼玉戦略というものを、2005年1月から行っております。中身はワンストップ、クイックレスポンス、オーダーメイド。補助金や融資制度は原則行わないということにしております。立地件数がそれから998社、投資総額が1兆5705兆円、新規雇用が3万3100人に至っております。

本県の基本的な部分では、内陸工業県ということでありますので、自動車のホンダ。これは世界のマザー工場が埼玉県にあります。あるいはUDトラックス、あるいはまたカルソニックカンセイの本社研究所等、輸送機器関係の企業が多くございます。さらにオプト、いわゆる光学レンズでは、日本の最大の産業でありますので、これと連動した医療機器等が非常に盛んであります。

直近ではこの名刺の薄さ、0.3ミリ。この0.3ミリの針の先にレンズを付けて、内視鏡としてお腹に刺して傷も付かない、血も出ない、しかし中が見えると。ただし、ちょっと肉の厚い方は針の長さが長くなるという問題はありますが、いずれにしてもそうしたこの医療機器と光学レンズの組み合わせによって、まさにアライアンスによって新しい技術が展開されております。医療機器、さらにはまた医薬品、化粧品等では、日本有数の埼玉県であります。さらに食品加工では、愛知県に次いで二番目に熱心な力のある県でございます。

こうした国内の中でも、一定程度特色のある部分と関連した形で、世界に向かって誘致を行っております。また同時に、埼玉県下の中でもアメリカには多くの企業が展開しております。今見ていただきますように、赤で塗り潰したところに県内企業38社が、アメリカ内の各州に76社の現地法人が今展開しております。埼玉県の中でも有力なホンダがオハイオ州に16社展開しております。またカルソニックカンセイはテネシー州に現地法人を置いておりますし、曙ブレーキ工業はケンタッキー州等幾つかの州に現地法人を置いております。

とりわけ本県に先ほども御紹介したマザー工場のあるホンダモーターは、アメリカに12の生産拠点があって、とりわけオハイオ州に行きますと、ホンダの社長は大変、ケーシック知事をはじめ大歓迎で、大統領並みに歓迎していただけますが、私等はたいして歓迎していただけません。やはり雇用に貢献するというのが、アメリカでは最も偉大な人だと感じられるところです。

今後は製造業だけではなくて、日本食ブームでも人気が高まっています、日本

酒や狭山茶等も県産品の販路開拓等に、支援していきたいというふうに思っています。

今年度、日米中西部会がネブラスカ州でございますので、こうしたところでもまた機会があれば、また埼玉県への投資、埼玉県からの投資、ともに展開していきたいと思っています。ありがとうございました。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

どうもありがとうございました。上田知事からでした。様々な投資がアメリカにも埼玉からなされているという素晴らしいお話でした。このお茶は実は埼玉県産です。たった今お話があった狭山茶です。ぜひ楽しんで召し上がっていただければと思います。

それでは次に、スザナ・マルティネスニューメキシコ知事にお話をお願いしたいと思います。全米知事会の夏の大会を主催されました。

○スザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事

お招きありがとうございます。私たちにとって、お互いに直接話をするによって、どうすればお互いの国に投資を促進することができるか。各州レベル、県レベルで何ができるかという議論ができるのは素晴らしいと思います。

ニューメキシコは長い間、迂回されてしまう。あるいはその上を飛び越えられてしまう。そのような州でした。投資対象先とはなかなか理解していただけなかったわけです。

4つの軍の施設があって、それから国の研究所がある。研究所はもちろん、国家安全保障関係の研究をやっているところだったんですけども、いずれも軍と関係があるということだけでしか知られていませんでした。

ただ、もう一つ重要な石油、ガスという、そういう産業を持っていたわけです。25年間に渡って、その二つしか考えてこなかった。それ以外はなぜ見逃されてきたのかということを考えてみて、現時点においては、その結果、州の3分の1のエネルギーが再生可能エネルギー、それから3分の1がもちろん石油、ガスという恰好になったわけですけども、我々はガス産業を州内に持っているので、そこではもちろん、税収の減であるからということで、そればかりを考えていたわけです。

民間も非常に強い。連邦政府もそれから石油、ガスも非常に景気後退期があって、それから規制緩和があってというような、いろいろなことがあって、それからその国の研究所があって、軍の施設があって、それに対する規制がいろいろ変わってということで、税収がその結果として非常に上下する状況でした。

ニューメキシコでは風力がかなりあります。それから日照、365日近く毎日晴れている。また、温暖というよりも暑いということで、ソーラーパネルの設置に適しているわけです。そのことを見ました。

それからこの盆地があって、その結果、例えば石油、ガス、ガスの抽出に関してのクラッキング技術というのが非常に出てくるということで、ペルミアン地層

というのが非常に。そういうことを見て、ニューメキシコが大きく変わったわけです。通常ですと、1年以上掛かるとか、あるいはそれよりも超えても企業に対しては許認可がなかなか下りないというような状況。回答さえ出さないというようなことがあったわけですが、そうなってくると経営はできません。ここで掘削をしたい。それは州の所有地である。1年か1年半掛かっても答えが出ないというような状況では、これでは経営ができないということで、10日以内に許認可が下りるというふうになりました。

それから、ニューメキシコ州にも連邦所有地がたくさんあるわけです。そうすると、空間が非常にある。例えばホワイトサンズ軍事基地にも、ホワイトハウスの上空のように、そこの上は飛べないという空間があるわけですが、それ以外のところに空間がたくさんあります。それをどう掘削できるのか。そのドローンであるとか、そういったところに改正できるのではないかとということで、スペースファーストアメリカというところがあります。たくさんのロケット関連のテクノロジーを航空宇宙関係、それからドローンというようなもののテストに使うことができるようなものを作りました。

飛び越されてしまうような、そういう州ではなくて、また、石油産業とそれから国立研究所と軍だけに支えられているのではなくて、もっと多様な経済ということを考えました。その中からたくさんの市場が出てきています。現時点において、全米のどこよりも1平方地域当たり、たくさんの博士がいます。Ph. D. がいるというような状況になっています。ニューメキシコがそうです。

グラントを得る可能性、つまり素晴らしい発想を持っているんだけど、なかなかそれをうまくマーケティングできないという人たちを支援することで、これは州政府自体が支援したんですけれども、やってきました。

また、経済の多様化、多角化をやりたいということであると、やはり減税が必要であるということになりました。私が就任している間、61回減税しました。覚えておいていただきたいんですけども、ねじれ関係にあって、私の属している党と、それから州議会が属している過半数の党とは違うんですけども、61回通過しました。

多様化をさせた、多角化をした。成功してきたんですけれども、それを世界と共有したいというふうに考えました。私の州に投資を融資したい。状況がどう変わって、こんなにもポートフォリオが変わったのか、ニューメキシコに来たい、つまりテキサスに行くとか、あるいはコロラドに行く、その途中通過されてしまうニューメキシコではなくて、ニューメキシコ、あるいはメキシコと国境を共有しているということで、インフラも導入しました。

その結果、世界中の企業がニューメキシコを誘致先として考えていた。以前は二つの産業しかなかったわけですが、これからはそれをどう維持するのか。三本柱ということを考えていますので、民間、産業の誘致ということを積極的にやりたいと思っています。そして、そこで起業する。つまり他の州政府とこの領域であれば競争するの、やぶさかではありません。喜んでやりたいと思います。テキサスだ、ニューメキシコなんて考えていないというようなところが、今

ではニューメキシコを選んでくださるようになってきている。

その結果、劇的に状況が変わった。テキサスとも協力ができる。テキサスと私たちのところで、ペルミアン地層というのは共通なんですけれども、クリーンエネルギーが必要だというのは共通している。天然ガスも重要になっています。数千カイリ、液化天然ガスをニューメキシコから送ることによって、節約できる。距離を縮めることができるという状況になっていますので、日本にしても台湾にしても、今4か国が中心になっているんですけれども、中国、韓国、台湾、そして日本が全液化天然ガス、世界の使用料の6割を占めている。なので、その4か国、お互いのニーズを満たすというような形で、双方で投資をすることによって、この同盟国の方々と一緒に成長していきたいというふうに思っています。どうもありがとうございました。

○進行（平井鳥取県知事）

マルティネス知事の方から、非常に大きなビジョン、また、挑戦課題を提示していただきました。事業環境をこう変えたという、そういう事例でもありました。再生可能エネルギーを導入したのだ、あるいは新規事業の誘致もしているのだというお話でした。

それでは次に、大井川茨城県知事にお話をいただきたいと思います。

私、申し上げたいのは、私の隣のこのこちらの方。彼は岡山県の伊原木知事でございます。こちらは茨城県の大井川知事でございます。ちょっと混乱しがちなんですが、こちらは荒井さん、私は平井です。では大井川さん、どうぞ。

○大井川茨城県知事

御紹介ありがとうございます。大井川でございます。茨城県知事をしております。

サンドバル知事、最近、御結婚されたそうで、本当におめでとうでございます。ジョージ・クルーニーにすごく似ていらっしゃるじゃないですか？ジョージ・クルーニーがネバダ州のプレゼンテーションをしているんだと思ってびっくりしたんですが。

私、シスコ、マイクロソフトで働いておりまして、ネバダ州でたくさん会社の会議を開いた記憶がございます。ですから、連邦の土地が非常に多くて、なかなか開発できる土地がないというお話、非常に興味深く伺いました。

では茨城県のプレゼンテーションを日本語でさせていただきます。

茨城県、上田知事の埼玉県に比べると、人口で言うと半分以下の規模になりますけれども、非常にネバダ州や、ニューメキシコ州のように、国有地が多くあるというわけではないので、非常に土地には恵まれておりまして、農業が非常に盛んでございまして、北海道に次ぐ日本で二番目の農業県になっています。

畜産も盛んですので、恐らく大量の飼料をアメリカから輸入しているはずでございます。

それから、茨城の特産品の中に、納豆というものがございまして、これは大豆

を発酵させた食べ物で、これが食べられたらあなたも日本人と言われるような、代表的な食べ物なんですけども、この大豆が、実はほとんどアメリカから来ているということでございまして、加工して茨城の名産だと言っているのが納豆でございます。

農業もさることながら、実は茨城県はですね、大変幅広い産業に恵まれているんです。御存じのとおり、つくばというところがございまして、日本のトップの研究所がたくさん集まっている場所でございます。そこで特にロボットインダストリーですね。ロボットスーツというようなですね、医療とかいろんな形で使われるようなロボットスーツを作るベンチャー企業でありますとか、あとは皆さんよくご存知の日立製作所ですね、グローバルカンパニーでございます。日本発のグローバルカンパニーですが、もともと茨城が発祥の地です。ですので、日立製作所のR&Dセンターとか主要な工場が茨城にたくさんございます。

その他にも、石油化学とか鉄鋼とか、そういう素材産業が鹿島という地域に集中してまして、恐らくそのうち、ニューメキシコ州からも、今オイル&ガスを輸入するということになっているのではないかなと。東京ガスも含めて、輸入基地も茨城県にございますので、いろいろな御縁があるのではないかと思います。

ただ、そうは言っても、今茨城県、1980年代の日本がとても産業華やかかなりし頃、非常にその繁栄も謳歌しているんですけど、やはり最近、もっともっと新しい産業を作っていかなければならないということで、一生懸命企業誘致にも取り組んでいます。

私の方で説明させていただくのは、いろんな海外の企業にもぜひ茨城県に投資してほしいということでございます。その時に申し上げているのは、日本の中心地である東京から非常に近い便利なところにあります。東京から45分でつくばという、R&Dの拠点に来ることもできますし、それから成田国際空港からも、55分で来られるということでございます。それから、その他にもつくばは、そのR&Dを日本の研究者と連携してやるのには、とても便利なところでもございますし、それから県としても非常にたくさんの支援制度を用意しているということで、この前も東京で、たくさんのアメリカの企業も含めて、日本に投資を考えてらっしゃる企業とセミナーをやらせていただきまして、いろいろ御紹介をさせていただいたところでございます。

まず、そのつくばの御紹介です。つくば研究学園都市ですね。国の研究機関の3分の1がこのつくばに集まっているんですね。そして2万人ほどの研究者が仕事をしています、Ph.D.ホルダーはもう8000人近く。海外からの研究者も、7000人以上、この場所で仕事をしています。そういう方との連携をして、新しいイノベーションを起こすには、非常に最適な場所じゃないかなと思います。

ちなみに、来年2019年、G20が日本で行われますが、その中の貿易とデジタルエコノミー、この二つのテーマの大臣会合がこのつくばを中心に行われる予定です。今、最もそのトピック、トレードの方は余り私もここで発言するのを避けておきますが、デジタルエコノミーは、非常にこの社会構造も含めて、大き

な興味の対象になっていると思いますので、非常に注目される大臣会合が、来年このつくばで開かれることになるかと思います。

次が、つくばの特徴として、研究所のリサーチ機関。国が指定したトップ研究所ということで、このナショナルAISTでありますとか、理研でありますとか、NIMSというようなトップの研究所もつくばにあります。

それから、国際戦略特区という形で、いろんな税制優遇とか、規制緩和というような政府からの支援も、このつくばに対して行われているということで、非常にそのR&Dを日本の研究者と一緒にやるという意味では、非常に茨城のつくばというところが大変便利なところになっているということです。

次が、県のサポートということですね。様々、今アメリカの例も御紹介いただきました。参考になりましたけども、我々も地道なところから。実はあまり茨城には海外の企業が来てないんですね。18社かそれくらい、本当に数えるほどしかなくて、これをぜひ増やしたいと思っています。セミナーをやったりとか、ポータルサイトを作ってきめ細かなサポートをすとか、PRをすとか、それからいろんな補助金を付けているんですけども、特に特徴的なのはR&Dですね。この3番の②にありますけども、R&Dの費用に対してもその補助金を付けたりとか。ちょっと我々としてもどんなことができるか。この後のディスカッションでまたいろいろアドバイスいただければと思いますが、工夫を凝らしているところです。

これがその他の支援の中身なんですけれども、税制優遇、それから工業用水の値引きのようなものから始まって、あとは本社が来てくれるのであれば、最大50億の補助を用意しますよということですね。実はそういう、今後のAIとかIoTという産業の中心になるような、そういう機能を茨城に持ってくるために、こんなことも取り組んでみております。まだ始めたばかりなので、成果はこれからやってみないと分からないですが。

ということで、茨城の紹介をさせていただきました。皆さんとのいろんな繋がりを得ながらですね、ぜひ我々の方からもアメリカに投資する。それからアメリカにもぜひ投資していただきたいということで、関係をこれをきっかけに深められたらいいなというふうに考えています。どうもありがとうございました。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

どうも、大井川知事、ありがとうございました。大井川知事の方から素晴らしいビジョンをいただきました。様々な補助金とか、あるいは支援等を県が提供しているという、いい模範例でございました。それから、つくばの話をされました。

では次は奈良県、荒井知事お願いいたします。

○荒井奈良県知事

議長、ありがとうございます。今日のアメリカからの参加者の方々は、グアム

以外は内陸です。このような内陸の州というのは、奈良県と比べて非常に活発であるということで、素晴らしいと思います。皆さんのレポートによって、私は特に元気付けられました。私の奈良も内陸の県だからです。港ですとか、またはグローバルな市場から遠いところにあっても投資をしたいと、投資を受けたいというふうに考えていますので、皆さんのプレゼンテーションを聞いて、本当に私は元気が出ました。

奈良が内陸地であるということで、グローバル経済の中で苦労しております。これが私のプレゼンテーションのタイトルになっています。

一つ例を挙げたいと思います。日米の製造ネットワークに関してです。まず、このフィンガーレイクという、アメリカの北東部で切られた木が木材に加工されて、それが日本に輸出されます。そして奈良県の南部にある工場で木材をコーティングしています。それをオフィスの床ですとか、または住宅に使っています。木材ですとか、またはこういった木ですけれども、アメリカのものはしっかりとしているということで、床材として非常に適していると。

奈良の従来型の産業は、繊維とそれから木材の生産だったわけです。非常に旧式の産業であるということで、今では市場というのがどんどんと縮小しております。従って、私たちは新しい産業が必要である。それによって、若い人たちの雇用を生んでいかなければいけません。新しいエンジンとなるような産業として、こういったものがあるか。例えばモジュールの生産、医療分野、また食品の製造、また観光、そして教育等が考えられます。

幾つかの事業がグローバルな市場で競争し、成長していますが、例えば新しいこういったエンジンとなるような業界で起業家となる積極的な人を見つけていかなければいけません。特に奈良の近隣でもそういったところが出てきておりますので、ぜひ私たちとしては、こういった産業のクラスターを作っていきたいと考えています。

こちらのグラフですけれども、国際的な1000平米以上ある企業が、こういった地域に新しく投資をしているかということですが、例えば新しい工場がどれぐらい奈良で建てられているか。これは全国の中でも11位となっています。埼玉がトップ、上田知事の県ですね。

こういった新しい工場が奈良でも増えている理由ですけれども、まずは安全面です。洪水ですとか、津波ですとか、またはその他の自然災害に強いということです。また、高速道路、鉄道等が便利であると。メインルートへのアクセスがしやすい。また、土地のコストが低い。そして労働力も安い。また、教育のレベル、または医療、生活のレベルがいいということで、こういったメリットというのを、ぜひ国内外の投資家に知っていただきたいと考えています。

奈良の位置が内陸であるということにも関わらず、主要なこの輸送インフラに対してのアクセスが非常に優れています。例えば関西空港には80分で、また大阪の空港ですと60分で到達することができます。また、3時間以内に東京に新幹線、または飛行機で飛ぶことができます。20年以内にリニア新幹線がスタートするというので、奈良市の近くに駅が出来る予定です。そうなりますと、奈

良から東京まで50分で到達できるということになります。

そして最後に、こういった状況の中で、私たちは新しいビジネスの繋がりというのを、奈良とアメリカの間に設けたいと考えています。奈良からはこういった形で中国とか、韓国とか、中央アジア、東南アジアのマーケットが変わっていくかを知ることができます。また歴史的、文化的なこういった地域への繋がりも強いということで、こういった奈良にはソフトパワーがあると。それらは企業の安定した関係作りにも有効であると考えています。ぜひアメリカからの直接投資をお願いしたい。それによってウィンウィンの関係を構築していければと考えております。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

荒井知事の方から、非常にいい例を挙げていただきました。内陸の県でどういうふうに産業を促進していただくかという話でした。

では次に、ネブラスカの副知事を御紹介します。ネブラスカは納豆用の大豆を生産してらっしゃるというお話が、先ほどありましたね。

○マイク・フォーリー ネブラスカ州副知事

ありがとうございます。このような機会をいただきまして、大変光栄です。皆様、こんにちは。今朝方も申し上げましたが、農業がまさにネブラスカの中心的な産業であって、アメリカのまさに農業の中心地がネブラスカであると言っても過言ではありません。

農業というのは、実は5万軒農家があります。ネブラスカ全体で5万の農家があるんです。彼らはほんとに驚くぐらい勤勉で、よく働きます。倫理も高い、価値観も高い、日本の方々と非常に共通点が多いのではないのでしょうか。

この5万の農家が、ここ数年間、その農業政策のイノベーションを進めてきました。つまり、農耕法等の改善に努めてきました。結果、どんどんと効率が上がり、そして収量も高まってきました。以前と比べて、例えば10年前に比べて遥かに多くの収量、これは食料品も。そしていろいろな畜産物も使います。

リッキー知事と私が実は就任した時に、農業はそれほど支援の必要はないであろうと。農家はうまくやっていると。じゃあ、他の例えば製造業はどうか。あるいはネブラスカに立地したいと思っている企業には、どのような支援ができるかということを考えました。知事は実はビジネスマンです。御存じだと思いますけれども、リケッツ知事の家族はTDアメリトレードという会社の創業者です。誰かのキッチンで、ほとんど従業員なしで、家族だけで始めた、ほんとに零細企業だったんです。アイディアだけがその資産だったんですが、今や世界中で6000人の従業員を持つ、オンラインの証券会社です。それからリケッツの家族はシカゴカブスというメジャーリーグの野球クラブも所有しています。

ですから、ビジネス経営には慣れているわけです。彼は新しい倫理、新しいカルチャーを州行政に取り込まなければいけない。企業あるいは立地しようという会社を顧客として扱わなきゃいけない。ということで、何か事務手続き、行政手

続きが必要になった場合には、彼らをお客様として扱えと。彼らにできるだけたくさん情報を提供し、できるだけ事務手続きをなくして簡単に許認可が下りるようにしようと言ったわけです。

これがとても重要な転換点でした。知事はかなり成果を出していきまして、例えばヤフーですけれども、彼らがデータセンターをネブラスカに立地したんですが、彼らは州政府の行政の効率の高さを上げています。行政、州政府といろいろなインタラクションをする時に、事務手続きがなくて非常に簡素でよかったと言っています。

私どもはそのビジネスに有利な、そういう州として知られています。リケッツ知事は2年連続である賞を与えています。これはネブラスカ州の州民一人当たりの投資事業の数がナンバー1です。1位です。それから本社の新規設置数、これもナンバー1です。これはKPMGの調査だそうです。支援BCでは事業コストでナンバー2。それからポリーナでは、最も企業に優しい州ということで2位に挙げています。またフォーブスという雑誌は、規制環境が最も有利である州の4位に挙げています。あるいは企業に優しい州も4位になっています。

ということで、私どもはさらにこの気運を高めていきたいと思います。このプロビジネスの環境の中で、フォーチュン500の企業4社が本社をネブラスカ州に立地しています。それに加えて、バークシャーハサウェイ、ユニオンパシフィック、ピーターキューイット、これは大きな建設会社です。そしてミューチェル・オブ・オマハという保険会社等はもう何十年も前からネブラスカに本社を持っていて、そしてどんどんと繁栄しています。

また、ネブラスカでは新しいものを作りました。皆様、シリコンバレーというカリフォルニア州のある地区についてはよく御存じだと思います。ハイテックの発展の中心ですけれども、ネブラスカではシリコンレイリーというものを作っています。ネブラスカには、彼らが求めているいろいろな資源があると。

例えばフェイスブックが9つ目のデータセンターを立地したいということで、ネブラスカ州が手を挙げて立地に成功しました。フェイスブックのデータハブを導入した時、100万平方フィートと発表したんですが、ただネブラスカに立地した後、これは100万平方フィートではなくて、240万平方フィートでもいいかなということで、さらに拡大しました。ヤフー、フェイスブック、Fidelity Investments 等が今、全ネブラスカに出資をし、そして立地をしています。州に来ると、このカルチャーに感銘するわけです。

また、ネブラスカイノベーションキャンパスというものを我々は作りました。そこではテクノロジーのスタートアップ企業を歓迎して、彼らにスペースとか、資源とか、いろんな便宜を図ります。また、大学との繋ぎも付けます。そこでこのイノベーションキャンパスで、いろいろなアイデアを試すようになってくるんです。ネブラスカでとうもろこしと牛肉しか育たないというのは間違いです。やはりこういった新しい企業がどんどんと育っています。これも有望です。

また、2週間後、アメリカと日本の協会がネブラスカのオマハで50回目の記念会議を開きます。ですから、ぜひいらしてください。その時は間に合わない

いう方でも、ぜひネブラスカにいらしてください。日本とは非常にいい関係を、今まで築けてきました。その関係を今後もさらに深めていきたいと思っております。ということで、今日は発表の機会をいただきまして、本当にありがとうございました。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

ありがとうございました、副知事。ネブラスカの状況についてお話いただきましたが、ネブラスカは今、農業の生産性を高めていращやるという話でしたが、行政手続きはまさにプロビジネス、ビジネスに優しい環境へと変わってきている。それがフェイスブック、ヤフー等、大手企業の誘致に成功した理由であるというお話でした。

次は岡山県の伊原本知事です。

○伊原本岡山県知事

この24時間で大変いろいろ勉強をしたわけでありますけれども、アメリカの知事が、仕事熱心で話が上手いことが、よく分かりました。

また、もう一つ分かったのが、4分の私に与えられた時間が非常に短いということです。これまで随分時間を超過してしまして、尊敬する平井知事が大変困られていることを、横でひしひしと感じています。できるだけ短く、端折っていきましょうと思います。

私、ネブラスカ州の知事とはお友達になれそうな感じがします。私も顧客は誰なんですかとずっと言い続けていますので、大事なことだと思います。

岡山県は製造品出荷額が約7兆円ちょっとということで、ケンタッキー州とネブラスカ州の真ん中にあります。国内でも上位にランクされています。この写真は水島ですが、この水島の説明で1分以上掛かりそうなので、ここは端折りまして、この新産業の創出と投資の促進に移ろうと思います。

次のページをお願いします。自動車産業は、県経済をけん引する産業でありまして、岡山県の財産であります。新産業ということでお話をしますと、御存じのとおり、ヨーロッパ、中国でガソリン車からEVへのシフトが急激に進んでおり、これに対応しなければいけないと考えています。岡山県、実は量産型のEVを世界で初めて作った工場のある場所でございます。私もついに世界で初めてという言葉を使うことができました。

岡山県では2011年から17年までの6年間、県が主導してインフォイルモーターを搭載したEV2台を実際に作りました。研究開発を支援したという実績がございます。さらに今年から5年間を目途に、EVの生産拠点を支える部品メーカーを支援し、EVシフトに対応した産業と地域の実現に向けた取り組みを、集中的に実施していくことにしています。この避けられない動きがあるのであれば、取り込んでいこうということで、今頑張っているところでございます。

では、次をお願いします。海外投資の促進ということであります。岡山県は雇用の確保と地域経済の発展を図るために、企業誘致に力を入れています。岡山県

は西日本の陸上交通の要衝でありまして、高速道路、新幹線、その他非常に便利などころであります。その便利さが随分最近認知をされておりました、例えばこの写真、アマゾン社の日本法人物流センターが中国四国地方で初進出することになりました。ちょっと100万スクエアフィートというわけにはいかないですけども、日本のサイズで言えばかなり大きいものが、今岡山に集中をしているところであります。

次、お願いします。安全な岡山ということで、地震についてもかなり安全な場所であります。過去90年間で震度6、経験したくないようなすごい地震は、1回も発生をしていません。震度4、これなら大丈夫かなぐらいの地震の発生頻度は東京の30分の1でありまして、本当に日本の中では一番地震に関して安全な場所であります。

また、地価が安い。オフィスの賃料も非常に安いということで、ぜひランニングコストのことも考えれば、岡山にお越しいただければと思います。

残念ながら、アメリカの会社がオフィスを作る時には、大抵東京に作ってしまいます。ぜひ岡山をはじめ、その他の地域も考えていただければと思います。

次、お願いします。岡山からも随分、シリコンバレーですとか、他のところへの投資もしているところがございます。4分で収めると言いながら、公約を実現できませんでした。政治家にとって公約は命ですので、こちら辺でおしまいになりたいと思います。ぜひ、我々投資もしてもらいたい、投資もしていくということを宣言して、私のプレゼンテーションといたします。ありがとうございました。
(拍手)

○進行（平井鳥取県知事）

伊原木知事、ありがとうございました。最もエネルギー溢れる日本人知事だと思います。そして投資を誘致するという発言をいただきました。東京の外にということですね。また、知事からはEVの話ですとか、または流通センターの話、またそういった可能性というのが岡山の中でもあるということでした。

それでは次にグアム島経済開発庁長官のジェイ・ロハス氏にお話いただきたいと思います。

○ジェイ・ロハス グアム島経済開発庁長官

再び、会議ではなくて、2回も発言の機会をいただきまして、本当に光栄でございます。また、来日を果たせたようです。知事からは、皆様によろしくと申し伝えるように言われて来ております。

今日お話したいのは、グアムにおける投資の機会ということなんですけれども、時間が限られておりますので、このスライド、ちょっと見ていただいてもいいかもしれません。飛ばしていただいてもよかったんですが、ぜひ見ていただきたいのは、投資先をグアムで求める時には、グアムというのは単一税収地区なんです。どういうことかと言うと、連邦税しか徴収しません。つまり州税というのがない。地方税がない。それから都市単位での税もないということです。その結

果、何ができるかと言うと、いろいろな税制優遇策ということで、例えば減税であるとか、あるいは控除というようなもの、様々なものを我々のところで独自のものを作ることができるということです。

一つデメリットもありまして、遠く離れているということがあります。なので、やはり人材開発を考えると、すぐ隣の州から借りてくるというようなことができないので、やはりこの島内で何ができるかというところに限定されてしまうという、そういうことになってしまいます。

我々としては、この資格証明書というのを島として発行しています。これは法律の下に提供されているということで、役所が出しているものなんですけれども、これでグアム島に投資誘致をしようということになっています。

具体的にはどのような企業の内容になっているのか。それからどのようなようなメリットがあるのか。例えば21年間にわたって、例えば75%法人税の控除があります。それから不動産税であるとか、軽減策があります。それから、いろいろなビジネスプレベレジタックス、これは販売税と同じなんですけど5%。これに対して100%、10年間にわたって軽減控除が適用されるということも入っています。

現在、我々としてはホテルの客室が足りないということがあって、そのための資格証明というのがあります。なので、今のお話に加えて、追加的な10%の建設費用に対する控除もあるということもありますので、どういうふうにこの10%を、どこに使いたいかというのを選べるようになっています。不動産税であるとか、あるいは法人事業税であるとか、ユーズタックスと呼ばれている別の税金でも使うことができます。

米国の関税地区外なので、関税がかからないということも、グアム島のメリットということになります。なので、4%のユーズタックスを例えば島外から何か持ち込みたいという場合に、これを使うことができるということで、ホテル建設を考えているんですけども、それを活用できるのではないかと考えています。

5年間前にこれが導入できることになりました。その結果、1600室数の新しい客室を、2020年までに増やすことができるようになる。半分ぐらい目標達成できたところです。今、さらにホテルの客室を増やそうと考えている企業というのが、今検討してくださっているということなので、我々としてはその結果ツーリスト、この数も増やしたいというふうになっています。

その次のところに、それ以外の産業分野というのがあって、ツーリズムとそれから軍、つまりガンとバターということでしょうか。つまり大砲とバターのような恰好になっていて、我々にとってとても重要。しかしながら、先ほどのマルティネスニューメキシコ州知事がおっしゃったとおり、三本柱にぜひしたいと。二つだけではなくてというふうに考えています。その結果、どういう作業がいいのかが、今模索されている。その結果、真ん中のところ農業、漁業、テクノロジー、製造業、それから住宅等々というものが候補に上がっています。

例えば、皆様が製造業ということを考えているということであれば、これはグアム島で製造された場合にはメイドインUSAになるわけです。メイドインUS

Aであるということになりますと、アメリカ本土での流通においても優遇されるということがありますし、建設プロジェクトであるとか、あるいはその関係の資材、グアム島でやはり作られたということになると、あるいは使用されるということになりますと、それだけアメリカ国内と同じ優遇策が得られるわけです。

14の光ファイバーの太平洋海底ケーブルが走っているのがグアムであるということですので、非常に通信もよいと。もちろん、平米数、あるいはスクエアマイル数ということでは、他の大きな州と比べると全然小さいわけですが、ただ、セキュリティが高いデータセンターを太平洋の真ん中に置くことができるということもありますし、アメリカの保護下にあるようなセキュリティの高いセンターも置くことができます。

カルボ知事の指示の下に、我が経済開発庁の下で、我々はコンシェルジェになるということを求められています。東京、台北、ソウルというようなところにほとんど毎月出張しておりまして、いろいろな方々とお話し合いを継続しています。こういうプロセスがあるのだという説明をさせていただく。投資家であるとか、あるいは資金提供者とミーティングを、積極的にやっています。おもてなしプログラムという名前を付けていまして、関心がある方々にはステップバイステップで、どのように事業を確立させたいのか、どうすれば税控除策の申請ができるのかとか、プランニングカウンセルというのがありますし、それから必要な許認可に関してはどう取ったらいいのかというようなことお手伝いしています。英語も日本語を話す人間もたくさんいます。それから北京語も、それから広東語を話す人間がたくさんおりますので、ぜひ皆さんのスタッフの延長として、我々を活用していただければというふうに思う次第です。

ということで、私もタイムオーバーになってしまいました。大変申し訳ありません。以上にさせていただきます。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

ロハス長官、ありがとうございます。本当にユニークな戦略を持っていらっしゃるということで、税制が連邦税しかない。それからそちらで作るとメイドインUSAになるのだという戦略を伺って、とても関心いたしました。投資先として魅力的であることが分かりました。

それではここでコーヒブレイクとしたいと思います。20分ほど取らせていただいて、3時25分に再び壇上に御参集いただければと思います。ありがとうございました。3時25分をお願いします。

○司会

それでは短いコーヒブレイクを取ります。3時25分から再開いたします。

ここで休憩のお時間に入らせていただきます。再開は15時25分を予定しております。どうぞお時間までにお席にお戻りをいただきますよう、お願いいたします。

(3) コーヒーブレイク

○進行（平井鳥取県知事）

それでは再開したいと思います。ケンタッキー州、ベビン知事が今到着なさいました。まず拍手でお迎えください。（拍手）

ありがとうございます。

○平井鳥取県知事

ではベビン州知事のお話の前に、私の方から私どもの県を紹介したいと思います。まずは時差ボケをちょっとここで回復していただければと思います。

鳥取県についてであります。幾つか写真をお見せしたいと思います。これは私の思い出ということで、ネバダ州のタホ湖、非常に美しい湖です。それからリノのダウンタウンですね。2006年にそこに参りました。

こちらはニューメキシコ州です。私がこのNGAの夏季会議に参った時の写真です。私は、ベビン知事と同じなんですがその時時差ボケでした。ということで、少しお散歩をしに行きました。サンタフェの街を散歩したんですが、そこで虹を見たんです。虹が、この日米を繋ぐ虹が、このように州のオフィスのすぐ近くに見えました。そしてこの州のこのオフィスから日の出を見たということです。

それからこちらはケンタッキー州ですけれども、リンカーンの像がありまして、それからフレッチャー、当時の知事ですが、その時にHonorary Colonelということで、そういった称号をいただきました。ですから、こちら側に実は座らなければいけないんですけれども、その称号をいただいたので。

では、鳥取県についてお話したいと思います。私たちの産業界はいかにイノベーションしているかということで、インフラ作りを行っております。これはニューメキシコと同様です。それで5212人の雇用というのが10年間で創出されています。これは私が知事になって以降ということになります。

それからこちらは、一つの例ということになります。日本セラミックスという会社がありますが、センサー、超音波のセンサーを製造しています。ここでは様々なセンサーですとか、または自動運転車に使われるようなセンサーを作っております。こちらが最新のテクノロジーで切削をするという技術なんです、これをお見せしたいと思います。

これは月光と呼ばれるドリルです。非常にハイスピード、高速で穴を開けることができる、またスマートでクリアなドリルですが、これを発明したということです。

それから様々な酒ですけれども、いろいろなカラフルな酒があります。ピンクとかブルーとかオレンジのものですが、それからスパークリング日本酒というのでも開発されています。

また、和牛の改良でありますけれども、鳥取和牛の改良というのは1988年からスタートし、この登録をしたというのが、実は日本で初めてだったんです。

その後も和牛というのをイノベーション、改良してきました。そして朗報としては、私たちナンバー１になったわけです。実は今日の夜のディナー、レセプションでもこの和牛を食べていただきたいと思います。ぜひネブラスカビーフと比べていただければと思います。

ありがとうございました。ちょっと時間どおりに終わらなければいけないということですから、以上にしたいと思います。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

ありがとうございました。では次です。ベビンケンタッキー州知事を御紹介したいと思います。ベビンケンタッキー州知事は、日本の雰囲気が大好きだとおっしゃっています。大阪の枚方に以前、暮らしていらしたことがあるということですから。ベビンさん、どうぞ。

○マット・ベビン ケンタッキー州知事

ありがとうございます。でも、たくさんの言葉は忘れました。もう日本語は以前のように話せなくなりましたが、本当に戻って来られて嬉しいです。時差ボケというのは、あれはもう気持ちの問題で、私はもうないものと考えています。いずれにせよ、皆様本当に御参加くださりまして、ありがとうございました。スライドは用意しておりませんが、ケンタッキーについて御紹介します。

ケンタッキーというのは、日本の多くの方はケンタッキーフライドチキンのケンタッキーおじさんを御存じだと思います。それからケンタッキーバーボン、それから競馬。こういったものをケンタッキーという話を聞くと、皆さん思い浮かべると言うんです。ブルーグラスステートと呼ばれているのですが、ただ忘れていたのは自動車です。実は世界で最大のトヨタ工場がケンタッキーにあります。ケンタッキーではシェビーのコルベット、フォードのトラック、それからトヨタカムリも全て。それからレクサスの一部も実はケンタッキーで生産されているんです。つまり、ケンタッキー州の経済の非常に大きな部分を自動車産業が占めています。

ただ、私どもの経済に一番大きく貢献しているのが、航空宇宙産業です。航空宇宙、それから航空機向けの部品。これがケンタッキー州の一番大きな輸出産業です。ワシントン州にボーイングがあるので、ワシントン州だけがケンタッキーを上回っています。私ども、やはりアメリカの中心部にあるということがあると思うんですが、ケンタッキーを私はアメリカのエンジニアリング、それから製造のハブオブエクセレンツにしたいと考えています。

グアムとハワイ、州であるハワイの方が、多分日系企業で雇用されている人口が我々でも多いと思うんですけれども、実はケンタッキーの労働人口の３２％の方々が日系企業で働いています。４万５０００人です。そして２００以上の日系企業がケンタッキーに、今現在もう既に立地しています。

ということで、本当に長きにわたる大変強い関係が、日本とケンタッキーの間にはありました。１９７４年に初めての日本の企業が誘致されて以来、４４年間

もうほんとに長きにわたる関係です。私が今回参加したのは、日本の全国知事会、それから全米知事会との強い繋がりがあります。このパートナーシップ、私にとってもとても重要です。アメリカの全ての人にとって、特にケンタッキーの知事にとっても、この繋がりは重要です。でも200では十分ではありません。できれば300、400社と日本の企業を増やしたいと思います。

ですから、幾つかの日本の企業と今回も話すことになりますけれども、もっとケンタッキーでの仕事をしやすくするためにレッドテープ、つまり官僚主義的な手続きというものを取り除きたいと思います。で、この赤いバッヂですけれども、アルミ工場でロス商務長官が同じようなバッヂを付けていたんですけれども、これは鉄です。赤い鉄で、これはレッドテープを切ろうということです。つまり、官僚主義をなくしてケンタッキーでビジネスをしやすくしたいわけです。

ケンタッキーに立地くださったら、答えがイエスではない場合もあるかもしれない。ノーという答えになるかもしれない。でも、少なくとも迅速にイエス、ノーは言います。もしかしたら、皆様の企業立地にもっと適した県、あるいは州がアメリカにあるかもしれませんが、でもぜひ米国進出を考えてらっしゃるのであれば、我々はすぐにイエスかノーの答えは出せますから、ケンタッキーを検討してください。

私のコメントは手短かにしますが、でもこのような機会をいただいたことを本当に感謝申し上げます。また、皆様も今日お運びいただいて、ありがとうございました。皆様のお時間を共有していただいて、この長きにわたるパートナーシップは、提携関係はさらに強いものにしていきたいと、心から祈念しております。ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

ベビン知事、ありがとうございました。貴重な時間を、家族と過ごせた時間を、私どもに費やしてくださって、ありがとうございます。ベビン知事もおっしゃいましたけれども、Commonwealth of Kentuckyというのがあって、そこが日本からの投資、誘致に成功していらっしゃる200以上の日系企業が立地していらっしゃる。それから自動車産業、そしてブルーグラスステートという評判もあります。

（４）意見交換

○進行（平井鳥取県知事）

参加者の方々から発表いただきましたので、次に質疑応答、あるいは討議に入りたいと思います。このパネルに対する何か御質問、コメントがありましたら、お願いいたします。

御質問がある方は誰に質問をなさるのかというのを、おっしゃっていただけますでしょうか。そうすることによって、明らかにしていきたいと思います。御質問ある方、どうぞお手を挙げてください。

どうぞ。

○マット・ベビン ケンタッキー州知事

質問があります。皆さん、知事の方々、それから日本側の方に質問があります。もしかすると、そちらに座ってらっしゃる方でもいいんですけども、よく私たちが知事として参りますと、日本企業にももちろん私たちのそれぞれの州に来てほしい、そのために来ているわけです。ただ、皆さん日本の知事としてはアメリカの企業に皆さんの県に来てほしいということだと思います。

こういった業界、やはりいろいろな、例えば日本は高齢化してきているということで、あまり若いワーカーがいない。自動化が進んでいる。でも、いろいろな製品には、まだ日本で作らなければいけないというものもあると思うんですが、こういった技術とか、こういった企業とか、またはこういった業界、アメリカのものですね。こういったところが皆さんのそれぞれの基本にとっては一番重要ですか。

○進行（平井鳥取県知事）

皆さんとパートナーシップを組むために、アメリカの企業が皆さんの県に行くためには、どのように私たちはできるでしょうか。非常にいい質問をいただきました。

では、こういったテクノロジーが必要なのかということですね、アメリカの企業から期待するものということですから、どなたでもいかがでしょうか。

○大井川茨城県知事

それでは茨城県のケースをお話したいと思いますが、茨城県では非常に大きな製造業界があります。例えば日立製作所は、既にグローバルな企業で、日本国外に工場を持っています。日本の業界、特に茨城の場合には、やはり変革が必要であると考えています。80年代とか70年代の時代の製造から、もっと、何と言いますか、ITベースの製造に変わっていかなければいけないと思うわけです。

ですから、茨城の企業というのは、より高度なIT業界とのパートナーシップを組んで、そして自分たちの技術を先に進めなければいけないと考えています。ですから、一番私たちが歓迎する業界、産業としてはIT、特にAIとかはもちろん歓迎です。

また、今日、茨城県は特別な支援を航空宇宙分野に提供することを発表しましたが、航空宇宙関連の分野の民間企業にも非常に注目をしております。ですから、そういったところも歓迎いたします。茨城にはJAXAがあります。これは日本でNASAに匹敵するものですが、こういった技術、それから施設もあるということで、ぜひそういった宇宙分野での投資関係を作っていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

ということで宇宙産業、それからITのお話が出ました。インターネット技術。その他にいかがでしょうか。

奈良の知事、どうぞ。荒井知事。

○荒井奈良県知事

奈良県知事の荒井です。私の夢は、100人のアメリカの投資家を奈良に連れて来たいと考えているんですけども、私の夢というのは非常に現実的だと思います。

私としては既存の奈良の業界、非常に小さいけれども非常にチャレンジングなところと、新しい、非常に強い熱意のある業界を繋ぎたいと考えています。よりよいこういった繋がりができると、うまくクラスターが出来るんじゃないかと。それが私たちの地域のエンジンとなってくれると思っています。市場は幅広いわけで、中国、韓国、台湾、それから東南アジアも近くにあります。

アメリカの非常にイノベティブな考え方を持っているところを誘致する。今日の午後に聞いた話は非常にいい話でしたので、うまくこの伝統的な私たちの持っている資源を繋いでいければと考えています。

そして、よりよい繋がりというのを幾つかの分野で作っていききたい。例えばモジュール製品。これについては機械産業が非常に強いということ。それから二つ目としては、医療分野です。例えば医療関係の大学というのも非常にいいものがあります。また、食品の生産です。小さいけれども、非常に能力の高い食品の生産もあります。例えばカレーですけども、ハウスというのは日本最大であります。ですから、そういった例えば食品加工とか、冷凍とかの技術を繋ぐことができれば非常にいいコンビネーションになるんじゃないかと考えています。

もう一つは観光です。ホテルの投資が必要です。最近、私たちはマリOTTグループを誘致したんですけども、これはうまくいきました。アメリカからなんですが、JWマリOTTですけども、そういった非常に良い、世界でも良いホテルを歴史的な奈良に来てもらうことになりました。

それから最後に教育システムです。革新的な教育のチャレンジ。特にネブラスカに関心を持っています。非常にいい大学、学校が奈良にもありますので、もし新たなチャレンジをしているような、革新的な新しい教育のマネジメントを持ったところを紹介いただければ、それによって私たちの刺激になるんじゃないかというふうに考えております。

夢は100の投資を奈良に持って来るということであります。アメリカ大陸の方からの投資はこれまでにないので。ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

ホテル、それから医療、そして食品加工等、いろいろな多岐に渡る分野を挙げられました。荒井知事の方から「I have a dream」とマーチンルーサーキングのようなことをおっしゃいましたね。私には夢があると。

次に岡山県知事。

○伊原本岡山県知事

荒井知事もおっしゃったとおり、私ども、特に教育への投資が必要だと思います。人材開発は明日のトピックだと伺っているんですが、特にコミュニケーションスキル、日本人は余り長けていない、問題があると思います。

ですから、やはり英語圏、例えばアメリカ等のような国にたくさんの留学生、学生を送り込んで、英語を学ばさなければいけない。あるいは逆に、多くの英語を話す教師を日本に誘致することが必要かと思います。

これはアメリカ側の投資になるか、日本側の投資になるか分かりませんが、非常に大きな需要が、そういった意味ではあると思うんです。もう何年も前からこの話をずっとしていたんですが、今でもその問題は残ってしまっています。つまり英語圏の方とのコミュニケーションに、まだまだ問題があるので、ですから、やはり話すのを止めて現実的な投資をそろそろ始める時期だと思います。

16人の中学生をケンタッキーから東京に派遣しました。多くが大学生だったんですけども、最近は中学、高校にまで年齢を下げています。日本の言葉を学んで、そして文化を学んで、そして、もしかしたらそういった方々が後で大学も日本に留学しようとするかかもしれません。教育というのは、我々共通の目標です。

この人材開発については、明日もうちょっと詳しく話があると思いますが、よろしいですか。今日何人かのスピーカーが、そのホテルに投資をしてもらって、ホテルを日本に建設したいと話でしたが、何が障害なんですか。そのホテルの空室をちゃんと満たすことができると思ったら、多分喜んで投資すると思うんですが、何が障害なんでしょう。

○荒井奈良県知事

率直に申し上げて、奈良のような古い都市では、やはりどうしても一見さんはお断りすると言いますか、やはり新規参入に対して抵抗があるということがあると思います。そこが一つの問題です。これは最近改善していますけれども。

もう一つ、やはりホテルの投資には他のいろいろな誘致地域や、投資先があって、奈良というのはあまり投資家の間ではよく知られていません。京都は有名ですけれども、「え、奈良？」「どこにあるの？」と。京都、大阪からどのくらい離れているのかと。京都、大阪からたった30分なのに、やはり奈良への投資は検討もしなかった。考えたこともなかったというような人が多いわけです。そういった知名度の低さが、二つ目の理由だと思います。

また、ホテルの投資にはやはり投資家がとても重要なんですが、アメリカでは例えばマリオットとか、その他の国際的なブランドのホテルがあって、優れた経営者がいらっしゃいます。私どもはやはりそのようなアメリカの経営者の方々を説得して、投資を誘致することが重要だと思います。

○進行（平井鳥取県知事）

ホテル産業にはすごく関心があると思うんですけども、ロハスさん、いかがでしょうか。

○ジェイ・ロハス グアム島経済開発庁長官

もう私どもも同じような問題を抱えています。アメリカへの投資を考えた時、特にホテルを建設しようと思ったらラスベガスですよね。グアムじゃなくてラスベガスに、まず投資先として考えると思います。

我々はアジアからの誘致の方が、アメリカからの誘致よりも成功していると思います。グアムに投資をした、最初のアメリカの企業がハンズマンだったんです。私どもの技術会社を実は買収しました。彼らが投資をして、そして実はデータセンターを作って、そして光ファイバー等の敷設をしてくれました。

グアムは台風がよく通る、通り道になります。ですから、全ての建物、我々の建築硬度というのは、多分アメリカでは最も厳しいと思います。カリフォルニアよりもです。我々の家は、全部鉄筋コンクリートで作られています。ですから、21階建てのホテルですと、かなり割高になります。建設費はすごく高くなるんです。

私ども、そのプロセスを支援するためのプロジェクトはあります。やはりレッドテープをなくして、官僚主義をなくして、そしていろいろな規制等、あるいは建築硬度等を克服する。これは我々のようなコンシェルジュのような、そういう役割が必要になるんだと思います。

それで、スライドで話ができなかったんですけども、できたら今800室のホテルがもう建てられて、あと1300が現在建築中です。これを1600にしたいと考えております。多分、時間の問題だと思います。時間さえあればそのぐらいの室数まで拡大できると思います。

○進行（平井鳥取県知事）

いろいろな課題が目の前にあるわけですが、アメリカと日本の間のパートナーシップが、多分大きく貢献できる部分があると思います。やはり状況を改善して、そして雇用創出にも繋がると思います。

マルティネス知事、あなたは非常に野心的なリーダーですね。そして優れたリーダーシップを発揮して、産業促進、そして雇用創出をされていらっしゃいましたけれども、何かコメントございますか？

○スザナ・マルティネス州知事（ニューメキシコ州知事）

ここ8年でどこが大きく変わったかと言うと、まず信頼。つまり各企業からの投資がきちんと使われているという、信頼をいただいたことだと思います。

私が着任した時にニューメキシコにおいては、今までにないような財政難という状況でありました。本当にお金がない。でも、いつも、いつもお金をくれ、くれとばかり言っているような役所、法人税も上げる、それからそれ以外のいろいろな税金を上げる、州政府はどんどんお金が必要なので、どんどん徴収する。そ

ういう力があるので、法人からどんどん徴収するというようなところには誘致したいとは、誰も思わないわけです。なので、私が知事であった間に法人税は上げたことはありませんし、一度も税金というものを増税をしたことはない。

その結果、退任をするわけですが、黒字化しました。ニューメキシコには210万人の人口がいるんですが、非常に農村地帯が中心であって、最大な赤字を抱えている状況でスタートしたのですが、現時点で年末はもっとよくなりますけれども、12億ドルのプラスで、7億ぐらい手当てができる。本当の意味で何かあった時に使えるような、そういう資金が10億ドルある状況です。

4期前ぐらいの知事さんの状況で、つまり石油、ガスがなくなったら、これは州予算の36%を占めているので、石油、ガス関係の税金で、それが36%の予算。それがなくなったら、もちろん州としては成り立っていかないわけです。そこでパーマネントファンドを立てました。石油、ガスの資金をやって、370ファンド、パーマネントファンドがそれが今、240億ドルになりました。何かあった時に、つまり石油、ガスの税収がなくなっても何とかできるという、そういう資金にしたわけです。

テクノロジーが向こう100年ぐらいは枯渇しないだろうということで確認できたので、なので、どの州に投資をしようかということになった時に、私たちのお金ではないわけで、我々が皆さんのお金をどう使う州なのかということを皆さん御覧になると思うんです。なので、こちらがどの州に、どの企業を選ぶかというよりも、企業の方からどの州を選ぼうかということになると思います。

もちろん美しいところでもありますので、ツーリズムも素晴らしいですし、文化も、例えば先住民もいますし、それからメキシコ人もいますし、もちろんアフリカ系もアジア人もいます。そして非常に歴史が長い、深い文化というものも持っている。

その結果、観光業も上向いてきました。それから外の企業の誘致もうまくいくようになりました。そこで、他の州に対して投資をするという、輸出もできるようになりました。なので、一方通行ではなくて、両方向で利益があるという状況になったわけです。ただ、まず存在を認めてもらう。ニューメキシコというところがあるのだということを、分かってもらうということが重要です。

州政府はどのように運営されていて、ここは信用できる、そういうような州かということを見てもらって、そうでなければ州として、そういう魅力を拡大することはできないというふうに思っています。我々はビジネスフレンドリー、企業フレンドリーということを打ち出しましたので、世界中から企業が来てくださっているという状況になっています。

○進行（平井鳥取県知事）

マルティネス知事、予算状況も黒字化をし、それと雇用も創出しながらツーリズム、観光業も成功させたという、素晴らしいお話でした。

（5）総括

○進行（平井鳥取県知事）

大変残念なんですけれども、時間がなくなってきてしまったので、今日のセッションまとめなければなりません。今日のところは議論をこれで締めて、明日議論を継続するという時間になりましたので、サンドバル知事をアメリカ側の代表ということで、それから上田知事を日本側の代表ということで、まとめの言葉をお願いしたいと思います。

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

平井知事、どうもありがとうございました。また、集まってくださった方々にも御礼を申し上げたいと思います。また、日本の知事の方々と同じ舞台の上に立って、いろいろな議論ができて、素晴らしかったと思いますし、成功例から学ぶところも多かったです。

グアムの長官の方も、それから副知事も、皆さんお話して。我々、競争というのは歓迎するんだ。でも最終的に最も自らの状況に合ったところに、各企業というのは誘致されていくのだ。我々が競争するということは、誘致されてくる企業にとって、これは大きな成功であるということが言えると思います。

結果として、26万人の新たな雇用が私の州でも創出されたということなんです。最終的に我々、知事として目指すのは、州民の民生向上ということです。新しい企業が誘致されるということは、そこで働く州民の生活の質の向上であり、その子供たちがきちんとした教育を受けられるようにするということです。もちろん、企業に対してフレンドリーということで、マルティネス知事がおっしゃったとおり、この減税ということも我々考えますし、それ以外のいろいろな日本の方々からも伺ったようなアイディアも活用していきたいと思っています。

それから、その職業訓練ということも重要です。日本はその意味でベストインクラスということで、日本の経営方式も含めて、一番いいやり方をどんどん輸入していきたい。ネバダにもそれを取り入れていきたいと思っています。成功例から伺って、大変に私も役に立ちました。各都道府県で何が行われているのか、あるいは他の州で何を行っているのか、伺うことができて勉強になりました。一緒にやっていくことによりまして、その選挙民のために一番いい状況を各知事として州、あるいは都道府県で作っていききたいと思っています。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

それでは上田知事、日本側の代表としてどうぞ。

○上田会長（埼玉県知事）

アメリカ側の知事の皆さん、そして会場の皆さんには大変長い時間お付き合いをいただき、ありがとうございました。それぞれ意欲的な、そしてまた成功例を中心にいろんな形で発表をいただきました。

全てそうだと思いますが、プラスはもちろん当然プラスに変えていく。しか

し、ネバダの水不足を、まさにウォータービジネスに変えていくという野心的な動き。マイナスもプラスに変えていくという、こうした話がたくさん出て参りました。

特にまたケンタッキーのベビン知事の方からは、それぞれ投資案件について、何が課題なのかということについて、明確にした方がいいのではないかという問題提起もありました。

ここに参加された県、そしてまた州に限ってだけ、それぞれ対日投資、対米投資の案件リストを整理して、まさにそれぞれの秘密として提供して、これからその案件について、各州、各県で検討して積極果敢に投資案件について研究をしていく。あるいはまた実質的に投資をしていくという形を取ったらいいのではないかというふうなことが、浮かんだところでございます。

また、事務方の方は余計なことと言って思っておられるかもしれませんが、ぜひこれはやった方がいいのかなというふうに思っていますので、御賛同いただければそうしたプログラムも考えていきたいというふうに思っていますので、また夕食の時、あるいはまた明日も含めて御賛同いただければと思っています。

こうしてかなり様々な形で情報交換、あるいはまた成功事例、優良事例等を学び合ったということに、私たちは心から誇り、そしてまた感謝を申し上げまして、総括に変えたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○進行（平井鳥取県知事）

上田知事、ありがとうございます。最後ですけれども、将来に向けて私たちは先に進まなければならないと思います。しかも協力してやっていかなければなりません。雇用を創出し、産業を創出していかなければなりません。そして両者のベストプラクティスを共有していきたいと思います。この議論は明日、さらに続けたいと思います。皆さん、ありがとうございます。

では、司会の方にマイクをお渡ししたいと思います。

○司会

それではステージ上で写真を撮りたいということなので、パネルの知事の皆様はその場所でお立ちいただけないでしょうか。

壇上の知事の皆様方、どうぞステージ中央にお並びをいただきますようお願いいたします。

さあ、皆様よろしいでしょうか。

平井鳥取県知事、進行役をお務めいただき、ありがとうございました。これで本日の日米知事フォーラム2018年、知事公開セッションを閉会いたします。御参加どうもありがとうございました。

全国知事会主催レセプションが、本ホテル、18時からスタートいたします。両国の知事様はこの会場、6時までにお戻りください。

3. 知事セッション

【日 時】平成30年8月28日(火) 10:05~11:30

【場 所】都道府県会館 3階「知事会会議室」

【参加者】（日本側）

上田 清司 全国知事会会長（埼玉県知事）

荒井 正吾 奈良県知事

平井 伸治 鳥取県知事

伊原木 隆太 岡山県知事

（米国側）

ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

マット・ベビン ケンタッキー州知事

スザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事

マイク・フォーリー ネブラスカ州副知事

ジェイ・ロハス グアム島経済開発庁長官

テーマ「人材育成と教育」

○司会

おはようございます。ただいまから日米知事フォーラム2018年、二日目の知事セッションを開催いたします。昨日に引き続きまして、進行をお願いしております鳥取県知事平井伸治様に、趣旨の説明をお願いしたいと思います。平井知事、御準備が整い次第お願いします。

（1）開会

○進行（平井鳥取県知事）

おはようございます。知事の皆様、サンドバル様、フォーリー様、それからベビンさん、ロハス長官、そして皆様、いい夜を、またレセプションはどうだったでしょうか。また、皆さん十分に休んでいただけたかどうか。素晴らしかったです。私はネブラスカの基準でビーフが合格したかどうか、心配しておりました。それからクアーズがいいのか、アサヒスーパードライがいいのかという、そういうような論争も起きたレセプションでしたが、とても楽しかったと思います。

昨日は雇用創出、それからイノベーションというような、産業の振興のお話をしたわけですが、今日は人材育成と教育ということで、引き続き議論を行いたいと思います。

共通の課題に直面しているということが、一つ言えるだろうと思います。一つは教育制度ということ、それから二つ目は優秀な人材不足ということです。例えばダイキンという会社は、世界でもシェアナンバー1という有名な会社ですが、

アメリカにもたくさんの支部であるとか、あるいは工場を持っています。私は井上会長と友人というふうに使わせていただける関係にあるわけですが、昨日もいらっしゃいましたが、常にモットーとしていえることがあるというふうに伺っています。人材というのは企業にとって宝であるのだ。これは世界中どこでも真実だと思います。企業の中には改善運動を導入している米企業もある。アメリカ人の方々もこのシステムに関心を持っていられらると聞いています。私の県である鳥取県においても改善運動を導入することによって、生産性向上を成功させていますし、同時にコストの削減も達成しているという状況です。

つまり、人材育成において共通して使えるようなツールが私たちには共通して与えられているということが言えると思いますし、また、効率化することもできる。

企業において素晴らしいと言えるような達成項目というのは、たった一人の人間が行うことはまず滅多になくて、必ず複数の人が集まって達成されるというふうに思っています。

まず最初に全国知事会の上田会長のお話からいただきたいと思います。

（２）知事意見発表

○上田会長（埼玉県知事）

ありがとうございます。昨日に続いてお願いをいたします。早速です。昨日は時間を超過しましたので、できるだけ時間内にと意識したいと思っています。

日本の制度では、教育部門は独立行政委員会の教育委員会の枠組みの中で行われておりますので、ややガバナンスという立場の中では関与の度合いが少ない状況になりがちであります。

実は平成２３年に、皆さんのところにあります右側のグラフ、２００４年ぐらいをピークに、日本はどんどん海外に行く学生が少なくなっております。それを２０１０年ぐらいの段階で私は知ることができて、ショックでありました。

こんなことではよくない。この１０年ぐらいでも海外から来る人たちが２倍に増えている。また、観光客も２倍以上に増えているという状況の中で、日本が内向きになっているという現状が我慢ならなくて、私は早速、次年度２０１０年の予算で海外に行っていただく学生の人たちをできるだけたくさん送りこもうということで１０億円の、基金を作りました。

当時、文科省のその年の予算が９億円程度で、たまたま文科省で委員をやっているメンバーが埼玉におられまして、埼玉では１０億円の奨学金を用意したぞと、一国を支えている日本の文部科学省が９億円でするんだと、こういう話をした途端、文科省は財務省の係官の机を叩いて、叩いて、一気に予算を増やして、その後、その勢いで文科省は海外留学生の予算を１１倍に増やしたということで、その原因は埼玉県にあったということで、埼玉県がそうした意味での先鞭をつけたというふうに思っているところであります。

基本的には１７００人の人たちを短期、中期、長期と、海外に出す仕組みを作

って参りました。

そして単に留学して帰ってくればいいということではなくて、日本に帰ってきて、日本の会社、特に埼玉の会社の中で海外に拠点を置いているような、例えばホンダであるとか、カルソニックカンセイであるとか、こういった会社でまた改めてインターンシップをしていただいて、さらに磨きを掛けるというやり方をやっております。

そうしたことで改めて、県内企業の素晴らしさだとかを学生の人たちに見ていただいて、まさに県民の税金を県内の企業の皆さんたちと共に活用していただくという形で、場合によってはその企業が気に入ればそのまま就職していくという、そういうパターンもあります。

また、これから単に一旦、皆さんから寄付を集めてそれを奨学金にするだけではなくて、冠を付けるというやり方をいたしました。例えば少額、１００万円という寄付でも、例えば私が寄付をすると、上田奨学基金という形で１名なら１名分の留学の資金を提供する。カルソニックカンセイが３００万円用意したら、そこで３人分用意をするとかですね。この冠付きの奨学金を制度として始めましたので、個人、企業、あるいは団体でたくさん奨学金を出す仕組みが今出来上がってきております。

いずれにしても、様々な企業や個人のいわば善意、そしてまた、基本的には海外に対する非常に熱心な思いというものを、より若い人たちに届けようという、こういう共同作業が現在、埼玉県で進んでいるところであります。

これからも、グローバル化に対する教育の推進として、例えばアメリカのボストン等に高校生４０人を、９日間という短い機会ですけれども、それを契機にして改めて少し長期の留学等を考えていただくきっかけ等を、そういうきっかけ作りの短期のものも用意したりして、埼玉県は展開しているところです。

基本的には４分になったと思いますので、少し簡略して御報告、そして埼玉県の特に海外向けの人材育成についてのお話をさせていただきました。以上です。

○進行（平井鳥取県知事）

上田知事、ありがとうございます。今、知事のお話の中にはグローバル化ということが述べられて、そのような状況に対応できる人材をどう育成するのか。そのための奨学金制度のような、そういう御説明がありました。大変に勉強になったと思います。

次にアメリカ側の全米知事会を代表したお話を、まずはネバダ州知事、サンドバル様からお願いします。

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

知事、ありがとうございます。ネバダについて一言お話をさせていただきますが、まずイントロということで、御招きをありがとうございます。また、二日目ありがとうございます。せっかくの４分ですから、できるだけ簡略して皆様に御礼を言うところは端折ってしまいたいと思います。

先ほど言いましたとおり、ネバダ州では雇用がどんどん作られています。7年前に全米最高の失業率14%ということで、17万5000ぐらいの雇用がどんどん外へ逃げていってしまうという状況があったわけですが、経済がもちろんよかったということもありますが、雇用の創出もできました。そのためには必要な職業訓練であるとか、あるいは教育ということも推進してきたということです。

ミレニアムスカラシップというものを、上田会長がお話になったようなインターファンドなのですが、例えば大学、教育、学費の半額を州の方が出すということで、何万人もの学生がこれを活用しているという制度があります。

次のページに行っていただくと、昨日も少しお話いたしました、テスラとパナソニックのギガファクトリーをネバダに誘致をした際に、6万5000人の雇用というのを、ギガファクトリーは約束をしてくださいました。これは500万平方フィートぐらいで、これはまだ3分の1ぐらいなのですが、もう既に2500がパナソニックの社員なのですが、6500の雇用がもう既に生まれています。熟練工ということですし、世界、アメリカでも最も高度な研究が行われている研究所が中に入っているということです。

まさに今、毎週100人ずつという形で、ギガファクトリーでは雇用が推進されている。90%はネバダ州民であるということで、州以外の所から積極的に採用ということは行われていない。あくまでもネバダ州、ギガファクトリーで就職したいという人に対しては、このネバダ州民を対象として、いろいろな呼び掛けも行っているということです。セクターごとの例えばコミュニティカレッジも、ハイスクールも、民間も、それから州のところも入れて、そのためのトレーニングプログラムというのをコースとして設けて教育をしています。

現在、需要の方が供給をそれでもまだ上回っているという状況が続いていますので、昨日も、ニューネバダという構想をお話したんですが、どんな人間であったとしても、こういった皆が得たいと思うような職、ギガファクトリーで就けるということを言いました。何人たりとも取り残さないということを考えています。技能もうそうですし、スカラシップで奨学金も渡す。それから48時間講座を受講すると、最初の資格が得られて、受給25から45ドルぐらいのところに就けて、それからまた48時間講座を修了すると、30から35ドルぐらいの受給のところに就けるような資格を提供して、そして段階、第3回目のコースに参加できる。そうすると、もっと給料が上がるというようなことを考えています。

現時点においては、ポストよりも人の方が多いという点に関してはできるようになってきているということです。州政府の支援によりまして、人をきちんと教育をし、つまり、いわゆるマッチングということをしてできるだけやろうとしています。今は、例えば福祉に頼っている人たち、優先的にこういったコースに入れるようにして、また最低賃金しか稼げていないような人たちも、やはり優先順位を付けて、こういったプログラムに入れるようにしています。

それからもう一つ、看護にも我々は力を入れています。そういった人たちが足りないということがあるからです。それから教師、教員も数が足りないというこ

とから、そこも入れています。ティーチネバダスカラシップという、そういうものを入れまして、もしも教師として、ネバダ州で4年間卒業後働くということを約束してくださるのであれば、学費については、こちらの方から支援をしようというようなこともやっています。

州全体、協力をカレッジ、地域社会、大学、コミュニティカレッジもあるんですが、民間も併せて協力をしまして、何週間かのカリキュラムをまとめることができるという、非常にスピードが速いです。そして、48時間受講をすれば、素晴らしい職を得ることができて、給料も高い。国の中でも皆がやりたいと思うような職業に就くことができるというような、魅力的なコースを作ることができています。

皆さん、メモを取ってくださっているんですが、オフィス・オブ・ワーク・フォー・インベストメントというのを、ネバダ州知事室に設けました。こういうような大学であるとか、コミュニティカレッジであるとか、あるいは民間がやっているようなこと、全部1か所で見ることができるようになっています。

400万ドル投資をしたんですが、このリターンは非常に高いということ。今、職を得ていない、福祉に頼っているとか、あるいは最低賃金しか得ていない人たちでも、優先的にもっといい職を、世界どこでもということではできませんが、州では雇用を提供することができる状況になりました。17万5000の職がどんどん失われていっているという、14.3%という失業率を、4.6%に7年でしたということです。

なんでこんなに、まだそれでも失業率が高いのかと言いますと、どんどんネバダ州に移住してきている人たちがいるからです。つまり、5000人ずつぐらい流入をしてきている。雇用は毎月3000から4000ずつぐらい増えているが、5000人が流入してきているので、まだこういう状況になっています。

○進行（平井鳥取県知事）

素晴らしいお話をいただきました。様々な、非常に強力なスカラシップの制度について御紹介いただきましたし、また、特別な訓練コースを特定の企業向けに、例えばパナソニック等向けに提供をしている。そして教育制度、つまり大学とか、カレッジ等と提携して、新しい取り組みをスタートされたということで、本当に賞賛申し上げます。

では次に、荒井奈良県知事より御発言をお願いいたします。

○荒井奈良県知事

ありがとうございます。私の方からは、奈良がどのようにして東アジアの人材育成の中心となろうとしているかというお話をさせていただきます。

2010年以降、奈良は東アジア地方政府会合という会合を主催して参りました。72の地方政府の代表が、毎年1回奈良に集まって、共通の関心事について対話あるいは討議を行っています。

この会合は、政治的な意思決定のためではなく、あくまでもディスカッション

のためです。参加者のレベルはばらばらで、知事もいれば、市長、市の管理者、それから公共機関等で働く職員もいます。ただ、彼らが平等の立場から共通のテーマについて、この写真のようなテーブルを囲んで討議をいたします。

この会合の目的は、高齢化とか農業、観光業、そして地域の活性化といった共通の課題について、継続して、対話をすることです。そして、これによって相互理解を深め、信頼醸成を行い、そして地方自治体の職員の能力開発になればと考えています。

過去のディスカッションから分かったことは、東アジアの各地域が抱える問題には、驚くほどの類似性があるということです。参加した自治体は、議題ごとにそれぞれ様々な専門家を派遣してくれます。

今年はこの会合が11月1日から3日、奈良で開かれます。テーマは「農林漁業の振興」、そして「グローバル化社会における人材育成」という、二つのテーマになります。ぜひアメリカの地方自治体の方々に、この会合への御参加をお願いしたいと思います。お待ち申し上げています。

3ページ目にいきます。これは別のトピックですが、奈良は東アジアの若者向けに2011年以降、サマースクールを開催しています。素晴らしい教授陣が2週間に渡って講義を行います。日本語でいずれも講義、それから討論も行われます。そして授業料、宿泊料は全て無料です。登録さえしていただければ、あとは初日に来ていただくだけです。

唐は中国のかつての国ですが、教育の中心であって、日本人も含めて、外国の生徒をたくさん集めて教育をしていました。奈良も唐、あるいは中国に生徒を派遣していたわけですが、奈良は1000年以上にわたる感謝の気持ちをこのような形で表しているわけです。

さらに、セミナーに中国、日本、韓国、ベトナム、アメリカ、他の国々の学生が集まりまして、そして2週間の間に、ツアーとか家庭訪問もあります。東アジアの未来を担う世代の間に、一種の信頼感のようなものが生まれます。いずれも東アジアの将来のビジネス環境の中で、2か国語、3か国語を操りながら、アジアの隣人についてより深い理解を持って働きたいという、強い願望を持っていると思います。彼らの素晴らしい願望を達成するためにも、この奈良のサマースクールは継続したいと思います。

今後、例えばアメリカの若者等、将来東アジアの市場で働きたいという願いを持っている方がいられたら、ぜひそういった方々も招待したいと思います。現在、日本に留学しているアメリカ人の方々も当然参加できます。

私は1945年、第二次世界大戦の終戦の年に生まれました。若い世代向けのこういった教育の機会が提供できる。また、私どもが提供しているフォーラムが80年前にあったら、私は戦争には至らなかったのではないかと、深く考えています。ハーバート・フーヴァー、元共和党の大統領は第2期目をもし続けていらしたとしたら、やはり戦争はなかったんだと思います。

いずれにせよ、学術研究活動を今後、奈良でさらに強化していきたいと考えて参ります。その意味で、私どもは特に医学教育、それから文化の保存、そして森

林保護、それから論理科学等の分野でも、いろいろな地域との繋がりを強化していきたいと思います。まさに人材育成こそがこの地域の未来だと思って、頑張ろうと思っています。ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

頑張ろうというのが、知事のトレードマークであるということです。奈良県知事の方からは、この奈良県が音頭を取ったアジアの会議の話があった。それから青年の交流、若い人の交流だけではなくて研究所間の、研究者間の交流ということも推進されている。アメリカの学生にもこういうような会議であるとか、あるいはこういうプログラムにぜひ参加をということで、呼び掛けられました。

次に、ベビンケンタッキー州知事、お願いします。

○マット・ベビン ケンタッキー州知事

ありがとうございます。いろいろなインスピレーションがたくさん得られました。あれは東大寺の写真だったんでしょうか。私は何年も前のことになりますが、この東大寺の柱を子供たちが潜り抜けていた。私も潜り抜けました。あれで長寿と、それから健康が約束されると聞いたので、一生懸命通り抜けました。

人材育成と教育は、アメリカの州知事のみならず、世界中の知事の責任だと思います。大人になった時に、21世紀に必要な技能を身に付けた子供たちが育つのかどうか。6つの点について今日はお話したいと思います。

私が2年半前に選出されてからやったことなんですが、もともと民間の出身ですので、これをやろうというふうに考えていました。雇用主として、若い人の人材が得られないということを考えていました。4年間の大学での教育では、即戦力にならないという認識を持っていました。限られた資源をどのように使ったらいいのか、幾つかのカテゴリーがあります。

まず最初はデュアルクレジットトレーニングというのを始めました。高校からスタートいたしまして、若い生徒で、高校生ながらコミュニティカレッジ、あるいは工科大学にも参加をできる。例えば溶接であるとか、そういうことを学ぶことができる。そして単位を高校で取って、それをカレッジの単位とすることができるといって、これに関してはデュアルクレジット制度ということで、州がお金を出してやるということをやっています。

それからスキルスイニシアチブということで、州の財政から1億ドルを拠出しまして、1億ドルをどのように使うか。コンペのような形になっています。特定の職に必要な技能を、どのように研修させるかということで使える資金にしています。

各高校、各カレッジ、それから各財界。お互いに話し合いをすることが要件になっていて、共同での提案を出さなければいけない。つまり、いろいろなアイデアが出されたとしても、全部の所に資金を付けるような、それだけの規模の資金ではありません。なので、どこにどうお金を付けるのかということに関しては、最も効率的にならなければなりません。なので、企業が例えば地元のコミュ

ニティカレッジであるとかに、働きかけて、いろいろなアイデアが出てくるようになりました。

結果としまして、5億4000万ドルに相当するような申請があったんですが、その中から選んだということです。18%、トップのものだけお金が付くことになりました。残りに関しては、この地域社会が出すことになっています。

1億ドル州政府が出して、そしてコミュニティがそれに加えて1億1500万ドルの拠出があった。小さいケンタッキー州なんですが、この25億ドル相当の技術訓練ができるようになったわけです。必要な、今まさにすぐ使えるような、そういう技能を持っているような人たちがたくさん教育されるようになりました。

それに加えて、この地元からいろいろな寄付等がありましたので、今2億5000万ドル以上のものが入っています。合計で35億ドルぐらいになっています。

奨学金がいいのだとよく言うんですが、何を学んで帰ってくるのかということが疑問になると思います。本当にニーズがあるような職に必要な技能によって行われているか。建設業であるとか、医療であるとか、ITであるとか、ロジスティクス、あるいは最先端製造技能というような、そういう職があって、ポストがあって、でも人がいないというところに絞って、ケンタッキーでは納税者のお金を合計40クレジット単位ということのために使っています。これだけあれば、参加者は無料でそういうものに参加できて、資格を取ることができる。しかも、これは学士号が出てくるわけです。現在、今言ったような領域だけでも10万ぐらいのポストが人材不足になっています。なので、20歳でなくてもいいわけです。40歳でも50歳でも、大人になってから戻って教育を受け直すことによって、無料でこういう教育を、そして資格を得ることができ、また、職を得ることができるようになっています。

それから、ケンタッキーヘルスというのもあって、これはまた後でお話することにしたいと思いますが、ケンタッキーでは現在州から、あるいは連邦政府から健康上の問題、いろんな問題からこの福祉を得ている。その時に、扶養家族がなくて、健康がある程度あって、そしてその意欲がある場合には、トレーニングを受けることができ、そして職を得ることができるということを作ったんですが、論理的だと思うんですが、でもこれに対する反対意見もかなりありました。無料で全部提供して、ただでもらえるという状況を作るのはどうか。

徒弟制度というのも入れていまして、現在ケンタッキーの1500企業がこの徒弟制度プログラムにサインアップしました。徒弟制度モデルというのを作りまして、これが非常に活発に動いています。他の州との比較はいたしません、他の州よりも成功しているのではないかとこのように判断しています。

この徒弟制度、アプレンティシップですが、医療の分野でも導入しました。アメリカの歴史上、初めて看護に関してもそうです。125人、州内の一番の医療機関が看護プログラム、徒弟プログラムということでやっています。若い人たちが今、もう存在している職にきちんと就けるようにということを考えているとい

うことです。

日本ではそうでもないかもしれませんが、アメリカでは刑務所にたくさん人が入っています。この収容者は頭もいいし、きちんと仕事もできるんだが、そういった技能がないので、また、サポートネットワークもないので職を得られないという人たちがいます。まだ、その受刑中に、アメリカの場合には95%の人たちがいずれ刑務所から出るわけですが、そうすると、例えば配管工であるとか、電気工であるとか、そういったような人たち、そういう資格を取った形で刑務所から出てくるようにしたいと思います。そういう技能を得させることによって、どこでもこの職が得られるわけです。

その結果として、540時間分の座学を刑務所で提供するようになってきています。刑務所では一日何もしないで時を過ごしてしまっている。その人たちがどこにいるか分かっているわけですから、すぐそこからその実務に就けるような技能教育を始めるということで、ここ2年のことなんです、いわゆるシードということで、この違いがもう既に表れてきていると思います。刑務所での教育をやっています。

1億ドルの技能教育が全て職業訓練に導入されたわけですが、その結果、3年間で3万人、技能がある、今必要とされている人材教育ということで出来ました。

その結果、初年度で4万ドルぐらいの給料を得ることができています。それと人数をかけますと、1億ドルを投資するというのは、これは非常に大きな投資だと思うかもしれませんが、その結果として12億のリターンがあるということで、十分あると思います。

それから文化交流ということも私は非常に関心があるので、私も他の州知事もぜひやってほしいと思うんですが、我々は日本の皆さんがやってきたことを、もっと勉強するべきだと思います。ガバナ奨学金プログラムであるとか、ガバナアートプログラムであるとか、ケンタッキーもあるんですが、グローバル交流もぜひやっていくべきだと思います。あるいは国際認識ということで、文化交流もぜひやるべきだと思います。

今回いろいろ学びましたので、持ち帰ってどんなことができるかという可能性を探りたいと思います。日本の方々と同じようにこの民間企業と一緒にあって、若い人たちが日本と文化交流をぜひ推進したい。それは我々、知事がまず率先をしてそういうものを進めたいというふうに思っています。

○進行（平井鳥取県知事）

ベビン知事の方からは、とても重要なお話が幾つも出てきました。6つのカテゴリーということをおっしゃった。一つはデュアルクレジットトレーニングということで、二重に高校と大学で単位が取れるというような、とても興味深いやり方。それからケンタッキーヘルスというお話がありました。それからもう一つ、この受刑者を社会復帰させていくということがとても重要だということで、職業訓練をこの刑務所内で推進していращやるのだというお話。それからもう一つ

が、文化交流が重要であるということも言っていただきました。

○平井鳥取県知事

では、私の方から発表させていただきます。

私の県ではネバダ同様、失業率が高かったわけですが、今では雇用率が高まっている。つまり失業率が下がってきています。

これを実現するために鳥取県では優れた技能を有する、いわゆるスペシャリストを促進しています。例えば機械保全ですとか、あるいは建築板金ですとか、あるいは電気機器等の組立工等を支えています。こういった様々な領域で、様々な人材、多様な人材を育成したいと考えています。

このようなトレーニングは、主にOJTという形で社内で行われています。それも私ども、県の方から支援をしております。それ以外にも彼らを支援するための様々な便宜、施設を提供しています。これが新しいプロジェクトになります。地域経済を支える産業人材の育成です。

私どもは国と、それから民間と連携をして、このプログラムを導入しました。今年始まったものです。鳥取県が国の研修、研究機関、ホリテックユニバーシティというものを、これは東京にあるんですが、この大学が鳥取県に支部を設けました。

全く新しい、最先端の産業のためのカリキュラムを組みたいと思います。例えば宇宙航空、それから自動車、そして医療機器といった最先端の分野の研修プログラムを、これから開発していこうと考えています。

さらにダイキン工業とも提携がございます。ダイキン工業は日本で新しい世代の技能者たちを育成したいと考えています。そこでダイキン工業が、鳥取にあります国際研修所を提供してくださっています。そこでモデルカリキュラムを、例えば航空機、あるいは自動車、あるいは医療機器といった成長三分野向けに開発をしております。このようにして人材育成の新しい時代を切り開いていきたいと考えています。

そして次に、ファブラボ鳥取というのがありますが、これは県民それから子供のためのオープンラボとなっています。このファブラボ鳥取というのは、鳥取市の市内、それから鳥取県に数か所あります。3Dプリンター等が備わっております。子供たちがこの3Dプリンターの使い方を学ぶことができます。鳥取大学の教授が子供たちの訓練を行って、そして小さい頃からそのような技能訓練を楽しみながら提供しています。

それから農業の分野では、新しい農家の育成のためのカリキュラムを作りました。つまり、農林水産学を学んでいる。そういった高校の卒業生が教育の次のレベル、つまり大学ですとか、あるいは県の様々な機関等に進学する時、彼らに特別な認証制度というものを導入しました。これがスーパー農林水産業士というものなのですが、これを取得することで助成金、あるいは特別な資金等を県から得ることができるようになっていきます。

一部の高校では非常に地元の特色を生かしたカリキュラムを提供してしまし

て、例えばサーフィン授業というのがあります。日本海は非常に素晴らしいサーフィンに適した波がありますので、このカリキュラムは実は今年導入されたものです。生徒はもう、このサーフィン授業が始まるということで、非常に喜んでいきます。関心が高いようです。また、こういった学生が地元を愛す、地元愛が育つのではないかと期待をしております。

次に、同世代の若者交流による相互理解ですが、米国バーモント州とこのような青少年交流というものを実施しております。地元のリーダーを育成するために、スタンフォード大学と提携をしております。学生が学校あるいはホームステイという形で、家庭にしながらスタンフォード大学とインターネットで、オンラインでスタンフォード大学の講座を受講することができるようになっています。

また、スタンフォード大学がその講義を提供し、そして宿題も生徒に出してくれます。宿題、課題を完成して、そのカリキュラムを完了するという仕組みになっています。このプログラムの下で鳥取の学生、生徒が非常に高い水準のスタンフォード大学の教育を受けることができるような仕組みが出来上がっております。ありがとうございます。

○進行（平井鳥取県知事）

今のが鳥取の例でございました。

それでは次にマルティネスニューメキシコ州知事、お願いします。

○スザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事

おはようございます。きちんと教育を受けたそういった労働力を持つというのは、強力な経済、健全な経済、これを達成するためには不可欠です。ニューメキシコの場合には基準が低いと考えられていて、生徒、学生も恐らく余り優秀ではないんだろと思うれていたわけですが、他でもお話があったんですが、状況そのままだと成長できない。市場が必要としているようなもの、これを提供できないので、優れた企業を誘致できないという状況になりました。

一番苦しんでいるのは子供たちであるという認識から、その基準に達成できない結果、どんどんと落ちこぼれていってしまうということがありますので、学校、それからメンターシップ、これに関しては教師及び校長を対象としたメンターということで、学校、学校群、それから先生方に対して説明責任を与えまして、必要な将来の労働力の教育ということをやりました。

いわゆる理科系、それから数学、ここに特に力を入れました。我々、一歩後ろに退いて、10年後、我々としてはどのような状況になりたいのか。10年後、言ってみれば、売れるような技能を提供できているのかということを考えました。

若い子供たちより高い基準の教育になったという時に、どのような職を得られるのかを考えました。そういうことを考えて、教師の評価もしましたし、そして教師が卒業している、つまり輩出しているような教育学部もどうなのかということを見ました。優れた先生でなければいけない、そしてその優れた先生が、

ちょうど卒業する時に市場が必要としているような技能を持っている子供たちを育てるということを考えたわけです。

全員が全員、カレッジに行くわけではありません。従って、この職業訓練ということも考えましたし、ニューメキシコの場合には8万ドルぐらい、優れた溶接工になれば稼げるわけです。なぜかと言うと石油、ガスというのが重要な産業だからです。

そこで、例えば大型車両の運転免許もとても重要ですし、大型トラックの輸送が非常に盛んなのでそうだとということになります。なので、この10万人以上が今の職ではなくて、さらに一步上の職を必要としているという状況になっています。

高校の時から準備ができますし、我々の所でもデュアルクレジット制度をやっています。例えばハイスクールの学生が、カレッジのコースを取ることができるということになっています。そしてそのための、例えばAPコースというのもあって、高校授業料は無料になっているんですが、ニューメキシコの産業に合ったような、カレッジの単位を取っているんだが、高校生なので教育は全額無料だという恰好にすることができます。それから二年間の卒業証書というのが、これはカレッジ卒業したのと同等ということです。高校卒業証書を得る前に、カレッジの卒業証書を得ることができるというような、そういう状況になっています。4年間の大学に行く必要がありません。ニューメキシコ州始まって以来、一番高い卒業率になりました。中退が減ったということです。

それから4大卒も増やそうと思っています。その前には6年の卒業率、大学というのは中退をどんどん下げようということで、4年卒業、6年卒業を評価していたわけですが、私の頃には、例えば4年間は継続して学校に行けないが、また戻ってくることができ、以前はできなかったんですが、そういうことができるようになっています。何時間ということで、120時間、まずそこで1単位取れて、例えばマスターであるとか、ドクターであるとか、取れて、仕事に就くことができ、また復学をして継続することができるようにしました。そして4年間で卒業した場合には、最後の学期に関しては学費無料免除を導入いたしました。なので、できるだけ4年で卒業できるような、そういうこの後ろ立てが出てきているということです。

大学、あるいはハイスクール、州内で卒業をすれば、2.75ポイントということで、貧困層でも奨学金を得ることができます。

それから州内の学費、資金ということがあります。覚え書き書を作っていて、例えば日本との覚書を結ぶことができれば、例えば州内で卒業した場合にはいろいろな支援ということを出すことができます。

さて、数年前にフェイスブックがニューメキシコに拠点を持つようになりました。アルバカーキという群があるんですが、その中にフェイスブックのコミュニティブーストプログラムというのが導入されました。そしてデジタル市場向けの技能教育が、フェイスブックがリーダーシップを取って、世界で初めてだと思うんですが、10年後、15年後、どういう状況になっていなければいけないかと

いうことを考えて、技能訓練をやってくださっています。

現在のニーズに対応するのではなくて、10年後に対応するということで、いずれ卒業をして、その時には雇用を得るわけですが、その時にその雇用主である企業が、自分たちが必要と思うような技能をカリキュラムに組んで生徒に教えるということをやっています。

その結果、例えば以前1000の新しい雇用というのをアナウンスいたしました。ニューメキシコで新たにアルバカーキ州郡だけでも、我々の場合には200万人の人口なんですが、5万8000の雇用が新たに生まれたということになると、人材不足ということが一番重要です。

高校卒であろうと、技能を高めておかなければなりません。12年間の教育だけでは不十分です。技能、これは職業訓練かもしれないし、あるいは短大、4大、分かりませんが、世界の進歩に追い付いていかなければいけない。テクノロジー教育はさらに継続しなければいけないということから、引き続き高い水準を目指すようにしています。

卒業率はどんどん上げていきたい。それができないということになると、州として取り残されてしまうし、国も取り残されてしまうと思います。テクノロジーはどんどん入ってきていますので、最先端を常に追っ掛けていく必要があると、教育の分野でも思っています。どうもありがとうございました。

○進行（平井鳥取県知事）

マルティネス知事の方からいろいろなポイントが上がってきました。例えば奨学金システム。例としてはフェイスブックのコミュニティブーストプログラムというのが行われているというお話でした。興味深かったのは、高校生でありながら大学の卒業資格を得ることができるというお話でした。ニューメキシコでは、新たなそういった意味での技能教育制度がスタートしているというお話でした。

それでは岡山県の伊原木知事。

○伊原木岡山県知事

おはようございます。各知事の今までのプレゼンテーション、日米両方、本当に感銘を受けました。昨日も申し上げましたが、私はこういった素晴らしい知事と次の選挙で戦わなくてもいいので、安心しております。

やはり人材育成という意味では、外国でグローバル化する中で、どんどんと外国でも通用するような人材を育成していくことがとても重要だと思います。そこで、このようなグローバルな人材を育成するためには何をやっているかということをお話したいと思います。

岡山が成長するためには、やはり外国でもやっていける人材を育成することが重要です。そこでは英語でのコミュニケーションが重要です。ですから、若者が日々、日常的に英語に触れる機会を増やすことが大事だと思っておりまして、それを目指して、できるだけ英語を日常に使えるような機会を増やすことに力を入

れております。

また、海外留学も、その目標を達成する上でとても有効です。そのような体験を全ての若者に提供するために、いろいろな姉妹校提携の拡大、それから留学を考えている人たちに資金支援等も行っています。

昨日、岡山では留学促進フェアを行っているとおし上げました。これは駐大阪、神戸、米国総領事館との共催です。総領事館との御縁は続いておりまして、今年10月に第2回留学促進フェアを岡山で開催予定でございます。

同じ頃クレア、これは日本の自治体国際化協会の御協力の下、交流セミナーを開催することとなっております。米国の自治体幹部をお迎えしてのセミナーです。これに力を尽くしてくださった方々に感謝申し上げます。今後共、教育のグローバル化が進む中で、私もアメリカの自治体、それから学校との交流を継続、拡大していくことを強く願っております。

海外留学が必要だということが、もうずっと長い間言われていたのにも関わらず、これが実現していません。親、両親が外国は安全かという、そういう心配持っているという理由があると思うんですけども、私は留学先としては、私もスタンフォード大学に行きましたし、また、娘もワシントン州に留学させておりますので、安全だということは、私は実体験で分かっております。ですからその安全性、つまり海外で留学をする時に大都市を避けて、そういった地方等に留学させることのメリットを、私はアピールするべきだと思います。日常的に外国語に没入して、それを学ぶということ、大きなメリットがあります。

最後になりますが、日本人の英語あるいは特に岡山県民の英語の能力をさらに改善するためのいい策はないでしょうかということ、ぜひアメリカの知事にお聞きしたいと思います。

○進行（平井鳥取県知事）

伊原木知事は、特にその英語の教育についてお話になりました。海外留学を促進する様々な施策を導入されているというお話がありました。その一つとして、留学促進フェアを開催されたということ。また、文化交流プログラム等も行っているということでした。

最後に質問として、英語を教える、あるいは英語を学ぶ最も効果的な方法は何かというような御質問を投げかけられました。後でアメリカの知事の方々からお答えをいただければと思います。

ではアメリカの全米知事会から、ネブラスカ州の知事をまず御紹介します。

○マイク・フォーリー ネブラスカ州副知事

ありがとうございます。おはようございます。チケット知事と二人、4年前に着任したわけですが、二人で教育の人材開発を、どうしたらいいかとを議論いたしました。まず、効率化が必要であると。脂肪でだぶついているということ考えたので、それを考えてその結果、州の成長が阻害されているということでした。もちろん、知事とはネブラスカ州の経済を広げたいし、また、企業誘致をし

たいということだったのですが、税金が余りにも高いということで、それを下げたいんだが、そうなってくると州政府自体の効率化が必要だろうと思いました。改善というような例があります。日本から学んだこともたくさんあるということです。

この州職員は、毎日毎日のように改善プログラムをやっていて、これがとても効果的なツールであるということが分かりました。プロセス改善ということをし、その後スタートしたんですが、知事は積極的にこれを進めているというところなんです。

1万2500人の職員がいるんですが、少なくとも基礎コースはビーンシックスシグマというプロセス効率化のプログラムを取るようになっていることを必要にしています。ビーンシックスシグマは、ホワイトベルト、イエローベルト、ブラックベルトというような、そういう段になっていまして、製造業の方々であればビーンシックスシグマを、御存じだと思うんですが、プロセス改良ということで、いろいろなどどんどん高度化されているようなものになっています。

ネブラスカ州のリンカーンには、川崎重工が、つまり言ってみれば州政府のすぐ裏庭の所にこういうことの専門家というか、達人がいるわけです。この川崎重工のところに出掛けて行きました。州職員を連れて行きまして、例えばそのオートバイがどういうふうになられているとか、あるいはトラックはどう作られている。これは本当に効率的に行われているので、関心したわけですが、それを導入するようにしました。いわゆる無駄がここまで削ぎ落とされているということで、例えばジャストオンタイムで材料は届くし、それからてきぱきと組み立てられていく、全部機械化されている。まさに効率化、これの素晴らしいモデルでした。

私たちにとって、目からうろこという体験をしたということです。州職員はこれに学びまして、それから学んだ内容、我々が州政府で行っているようなプロセス、例えばペーパーワークも多いわけですが、どうすれば無駄を排除し、より効率的に行うことができるかということを考えました。

まだ着任して少ないですが、5000人の人員を削減することができました。しかも、サービスの質は高まったということです。そのことによって、企業にとってもその投資先としてネブラスカ州が魅力あるものにしたいと考えています。

州の中には公立学校としては素晴らしいシステムがあります。特にハイスクール、卒業率は非常に高い。農村部であるということ、それから農家が多いということで、非常に勤勉であるという、そういう歴史的なこともあると思います。高校だけは絶対に出ておけということが、農家の人たちは一生懸命に言うわけで、その結果非常に卒業率が高く誇りに思っているわけです。

ところが、我々その同じことをこの4年間の大学でもやろうとしたわけですが、それはうまく、なかなかいかなかったわけです。もちろん、4年間大学教育を得ることができれば、それは子供たちにとっていいかもしれないが、全ての子供たちにとって4大卒が必要なわけではない。これがもしかしたら、全ての子供たちに押し付けるべき目標ではないのではないかと考えました。

そこで、ハイスクールにもう一度強調点を置きまして、高卒の段階で、例えばハイテク企業に研修をさせるようにいたしました。つまり、高校生が毎月何時間とか、週何時間という形で、川崎重工に多くの場合には人材不足ということで、人が埋まらないような単純なところで付けてもらう。多くの場合にはお兄さんは4大卒だが、自分は電気工になりたい、あるいは溶接工になりたい、ハイテクの製造になりたい、あるいはロボットを操業したい。2年学校に行けば給料も高いしというような、そういう可能性を見たいと思いました。

非常に失業率が低いという状況で、働きたい人は皆、職を得られるという、そういう幸運な状況にはあるわけですが、それでも失業者がゼロになるわけではありません。なぜかと言うと、企業は変わるし、リストラで倒れていくところもある。

そういった場合に、この失業手当というのを当然欲しいというふうに言ってくるわけですが、その前にジョブコーチと話し合いをなさいということになっています。今までの職歴、どういう学歴なのか、あるいは一番重要なのは将来展望、どういう進路を考えているのか。4万の雇用募集があるわけです。その中でどこだったらあなたは合っているのかを、そのコーチと一緒に話し合うことになっています。あっという間に再雇用が得られるようにしたわけです。それが非常に功を奏しています。

この求職者と、それから求人側を繋げるということをやっているとして、その結果として失業手当の必要額というのが、どんどん下がってきました。ビジネスにとって、企業にとって、ネブラスカがとても魅力がある州にするというだけではなくて、スナッププログラムというのがフードスタンプなんです。それを得る前にまずジョブコーチと、どうすれば再雇用できるのかということを考えなさいというふうにしたわけです。これが非常にうまくいっています。

今、まだトライアルの状況なんです。成功してきているということで、その結果として失業手当の拠出額というのがどんどん下がったし、あるいは失業者も減ったし、そして企業もどんどん入ってくることができ、経済も拡大できるという、好循環がスタートしているというふうに考えています。ありがとうございました。

○進行（平井鳥取県知事）

ネブラスカ州のフォーリー副知事、どうもありがとうございました。改善プログラムを州職員を対象として導入されたという、我々と同じ試みだと思いますが、お話をいただきました。また、高校卒業率は非常に高い、そういう州なのだというお話。それから福祉手当の要件ということで、ジョブコーチとお話をするのだということも出てきました。文化的にも変えていこうというお話で、大変に参考になりました。ありがとうございました。

最後になりますが、コメントをお願いしたいと思います。ロハス長官、お願いいたします。

○ジェイ・ロハス グアム島経済開発庁長官

ありがとうございます。皆様、おはようございます。また、御招待ありがとうございます。

昨日の話はどちらかと言うと、ホテルとそれから宿泊業界について話をさせていただきました。私どもの最大の産業が観光業であるからです。ただ、それに続いて二番目が実は軍の建設です。建設活動です。

これはグアム島の地図です。ちょっと細か過ぎて読めないと思うんですが、これは大体26億ドル相当の軍のプロジェクト、建設事業がこれから行われるということを示しています。白い部分がそれを示しているんですが、白い部分は水です。つまり周りには州がないわけですね。周りは全部水です。ですから、周りの島から人を呼んでくるということはなかなかできない。

私ども、現在人口は16万人です。多分、皆さんの県とか州でしたら、16万は毎年の求人の数ぐらいだと思うんですが、つまり我々の求人というのは、もっと規模が少ないわけですが、ニューメキシコとかネバダと比べて。

ブルーの部分というのは連邦政府の所有地です。ここにいわゆる軍の建設事業というのが行われることになるわけです。一つ申し上げたいのはこの島の外の地域ではグアムというのはまさに軍基地そのものであろうという印象を持たれているんですが、実はグアム島における軍の施設は、このブルーのところだけに限定されています。全てではありません。これは80億米ドルの移転事業が今起こっておりまして、これから6年間グアムに軍施設等を、沖縄からグアムに実は今後移転するんですが、そのためのお金です。そのうち30億ドルが、この関係で日本の政府から拠出されております。

私ども、この12年間計画を立ててきたんですが、ただこの計画は大きくその間に変わってきました。これからどれだけの労働力が必要かを計画しています。まず、外国の労働者の支援がこの建設の規模を考えると重要です。これは一時就労、ビザで入ってくる方々で、例えばフィリピンとか中国、韓国の出身者の方々になると思います。こういった方々は建設業、こういったプロジェクトというのは常にあるわけではありません。ですから、例えばこの島にそのまま残っていただくことはできないわけです。建設が終わってしまったら、その後、彼らに職を与えるための十分なプロジェクト数は発生しないと思います。

2016年グアム、まあ、それ以前ですが、グアムの知事、それからアメリカの労働長官、この二人が唯一就労ビザを特に外国人労働者に対して出す権限を持っています。つまり、グアムの知事は知事としては唯一、そういう権限を持っているわけです。過去、外国の一時的な就労ビザで入ってくる外国人を許可してきました。その申請を出して、国家安全保障省がそのビザを出すという形になっているわけですが、2016年の9月にこの申請が止まりました。というのは、知事が外国人の就労ビザの申請をしていたのにも関わらず、ビザが出なくなったわけです。これはオバマがその許可をストップしてしまったわけですね。

これによって、多くの経済開発ができなくなりました。というのは、グアム島にそれができるような建設工が入らなくなったからです。この前のスライドを御

覧いただきますと、私どもは通常、大体1500から3000人ぐらいの臨時雇用を毎年受け入れます。2017年、こういった申請に対する許可が出なかった結果、大体400ぐらいに数が減ってしまいました。今年はもうゼロになっています。その結果、建設活動がほぼ休止してしまいました。結果として、グアム島における住宅の建設費が2倍になりました。

私どもの建物のほとんどは、時速200マイルの台風の強風、それから地震等に耐えるために鉄筋コンクリートだと言いましたが、大体1平方フィート当たり100ドルの建設費になってしまいました。結果として経済自体も費用が高まって、経済効果になりました。

労働力が不足だというだけではなくて、これにどう対応したかというお話をしたいと思います。グアム島は通常1500人ぐらいの建設工が必要だと言いましたが、これから3年間では、臨時工が4000人必要になります。そこで、どうやったらグアムの島民の建設工を増やそうかということを考えました。溶接工でも、あるいは大工でも、すぐに道具を与えたらできるというわけではありません。ですから徒弟制度、それから訓練が必要になります。

そこで我々は独自のトレードアカデミーを作りました。コミュニティカレッジに作りました。これは請負業者、それからグアムのコミュニティカレッジと、それから既にグアムにいた民間職の工等が連携いたしまして、そういった分野の専門職を育てようとしています。

そして今年の2月に、アメリカの最高裁がある判決をしました。つまり、グアムの知事がこのような臨時雇用のビザを発行する権限を与えるということで、国家安全保障省がその申請に応じました。こういった方とはH2Bという就労ビザなんです。グアムがこのH2Bのビザの労働者を受け入れることができます。つまり、他の知事、あるいは州とは競合がないわけです。今その申請を、ちょうど手続きしているところなんです。建設工をこのスクリーン上にあるような国々から受け入れると同時に、地元の島民にも徒弟制度、あるいは訓練を提供するということが条件になってきています。つまり、そのような技術を持っている人を外国から受け入れるだけではなくて、島民もこういった職業に就けるように、島民にも訓練をする制度をスタートしています。

おもてなしプログラムというのを、グアム政府では今展開していると申し上げましたが、グアムに進出したいという会社持っている企業と話す時に、政府内の例えば労働関係、それからコミュニティカレッジ、そして教育、文科省等も取り込んで、どのような労働力が必要かを検討します。つまり、こういった労働者、外からもらってくるだけではなくて、島内でも育成しようと考えているわけです。

こういった建設事業が実際許可が下りてスタートした時に、十分にその建設工が耐え得るような状況にしたいと思っています。

○進行（平井鳥取県知事）

ロハス長官はグアムの複雑な状況を御説明になりました。新しい軍事基地等を

建築しなければいけないのに建設工、あるいは労働者が不足をしているという事態であるというお話でした。ビザ発行にはグアムでは特別な知事が権限を持っているが、しかし一方で現地の人々にも研修を行って、この労働不足に対応しなければいけないと。それからおもてなしプログラムについてもお話がありました。非常におもしろいプレゼンテーションでございました。

（３）意見交換

○進行（平井鳥取県知事）

この時間管理、私が非常にまずかったものですから、大変申し訳なく、３０分以上もスケジュールから遅れてしまっておりまして、ディスカッションの時間がもうほとんどなくなってしまいました。

伊原木さんの方から質問があるということ。

○伊原木岡山県知事

私たち日本では非常に国民は勤勉で、これだけ時間もお金もつぎ込んで語学を習得しようとするんですが、なかなか英語を習得することができません。その解決法ということで、余りにも多くの人たちがニューヨークやロサンゼルスに出掛けて行くんだが、日本語を話す友人たちの間だけで暮らして帰って来てしまうということがあるのかもしれない。

皆さんの教育制度は大変に競争力があるようなんですが、日本の若者たちが皆さんの学校にバラバラに入れるような、そういうことはできないでしょうか。そうすると、皆さんにとっても非常にメリットがあるでしょうし、日本の若者の成長にもとてもいいのではないかなと思うんですが、そのギャップをどのように橋渡しをしたらいいのか。何かいいアイディアはないでしょうか。

○進行（平井鳥取県知事）

どなたかボランティアして答えていただけますか。サンドバル知事、どうぞ。

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

ありがとうございます。マルティネス知事がおっしゃったことと関係があると思うんですが、大学生のこの年齢に達している日米の大学生同士の交流ということで、学費を例えば一部支援するということができないでしょうか。私も大学の教師を目指している大学生で、４年生の娘がいるんですが、日本で英語を教えるということも関心があるかもしれませんし、ネバダ大学はラスベガスで学びたいという日本の学生さんもいると思いますので、例えば大学の学長間でMOUを締結をして、既に幾つかの国とやっています。州内の学費免除を外国人の留学生にも提供するということをやっていますので、窓口になる方を教えていただければ、もう既にスタートできると思います。

言語の習得だけではなくて、文化も理解をし、そしてその結果として健全な他

の国の文化に対する尊敬の念も生まれると思います。上田会長がおっしゃったグローバルというのは、まさにそういうようなところから生まれるんだろうというふうに思うんです。初めて来日をしてみて、ぜひ娘たちにも同じような経験をさせたいというふうに思いました。なので、大学同士での交流というのを、ぜひ何度か進められたらというふうに思います。

それができれば日本の全ての県、あるいは全ての大学にとっても大変にメリットがあるのではないかと思います。ぜひ協力させていただきたいと思います。

○進行（平井鳥取県知事）

奈良県の荒井知事の方からも御意見がありそうです。

○荒井奈良県知事

では一言だけ。先ほどの発表の内容、非常に印象深いものがありました。

特にサンドバル知事が教育というのは州にとって非常に重要なものであって、そして労働力のための教育であると。つまり、後で州に戻ってきて働いてくれる人のための教育であるという話がありました。

また、4年間大学で座学をしても、それだけでは即戦力にならないという話をされました。これも非常に印象深い言葉でありました。やはり大学のカリキュラムを考えなければいけない。将来の労働力のためであって、単にその親とか単位のためではなく、社会のための教育であるとおっしゃったと思います。

もちろん、その教育を単位で取るということも重要ですが、それ以外に徒弟制度、それから刑務所の受刑者に対する教育も行っているという事で、これについては後で質問をしたいと思います。

それからマルティネス知事は、子供の教育が重要だということで、それにかなりの予算をかけているとおっしゃいました。高等教育の制度等も非常に印象深いものがありました。

また、フォーリー知事は改善というお話をされました。高校の教育の実績が非常に上がっていらっしやると。

それからロハス長官はおもてなしプログラム、その他の本当に様々な教育、研修のプログラムを持っていらっしやるようです。受刑者向けの教育についての質問ですが、例えば資格とか、若い方々が受刑中に、つまり刑務所内でどのような資格とか、そういったものを取りことができるんですか。そして、例えば麻薬ですとか、そういった非常に荒れた生活から脱却するために、どのようなことができているのでしょうか。

○マット・ベビン ケンタッキー州知事

アメリカの受刑者、ケンタッキーもそうなんですが、おっしゃるとおり、麻薬という問題がかなり多いです。若い時に過ちを犯して、その結果、中毒になってしまう。しかし、それ以外を除けば素晴らしい人材だったりするわけです、頭もいいし。

どうすれば中毒状態から回復できるのか、どうすればチャンスを与えることができるのかというのは、考えていかなければならないと。まずその厚生施設が4か所あるんですが、青少年、18歳以下の犯罪を犯した人たち、そこからスタートしました。それから女子刑務所、そしてその次に男子の刑務所という順番で導入したのですが、例えば電気工、配管工、それからこの建設業における非常に具体的な技能、学ばなければ実際に職に就けないというようなトレーニングを始めました。

今、座学ではあるんですが、実務経験も持たせたいということで、ジャーニーマンという技能者資格を取り入れるようにさせたいと思っています。最初に座学、その後、例えば仮釈放で出るというような時に、外で実務経験もあります。

暴力的な犯罪ではなくて、いわゆる軽犯罪で収容されている人が多いので、できるだけ労働力に復帰させるということを考えなければなりません。アメリカでは職がないということになってしまうと、可能性は再犯ということで、つまり再犯率が非常に高い。日本でもそうだと思います。アメリカだけではありません。出所から1年間で復職できれば再犯率は12%ぐらい。でも最初の1年から3年の間に職がないということになると、5割以上再び刑務所に入ってしまうという。これは分かっています。なので、雇用をきちんと与えられるということがとても重要。

刑務所の中でスタートをして、自分の人生を変えたいと思う人は、これはもちろん自主的に参加しなければいけないのですが、職を求めている受刑者は多いです。仕事があるということは自尊心にも繋がると思います。

○進行（平井鳥取県知事）

ベビン知事、どうもありがとうございました。皆様、活発に議論に参加していただきまして、本当にありがとうございます。とても実りあるいい議論ができたというふうに考えております。

閉会の時間になってしまいましたので、このセッションが終わるわけですが、経団連の方々とのミーティングがアレンジされております。経団連というのは、日本でも最も力がある財界の方々の集まりでもありますので、ぜひお会いいただきたいということと、それからJETROとのミーティングもアレンジされております。アメリカにおける日本からの投資のアレンジをやっているところもありますので、役に立つ情報が得られるのではないかとというふうに思います。

ので、残念ながらこのセッションはここで終わらなければなりません。首相官邸でお目に掛かることができると思います。皆様方、首相とお会いいただきたい。もしかしたら今日、それが実現できるかもしれないと思っていますが、その時には同行させていただきたいと思っています。

サンドバル州知事が冒頭でこのようにおっしゃいました。日米の知事フォーラムの冒頭で、つまり、私たちはまさに今歴史を作ろうとしているのだというふうにおっしゃったと思います。そのとおりだと思います。

これからも継続するプロセスに付いたというふうに思っていて、両者一緒にパ

ートナーとして手を携えて、今後もぜひ継続していくことができればと思っています。皆さんの御支援を得て、このプロセスをさらに継続する。当方としては最大限の努力を惜しまない所存です。

アポロ11号のニール・アームストロング船長は、これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍であるというようなコメントをされましたが、それを考えると、現在、私たちは月面に着陸した状況だと思っています。なので、共に新しい世界、新しい未来のために協力をして進めていきたいと思っています。

(4) 総括

○進行（平井鳥取県知事）

アメリカ側、そして日本側からの知事の皆様方、御参加いただきありがとうございます。ネバダ州知事から、最後のおまとめのお言葉をお願いしたいと思います。

○ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

どうもありがとうございます。皆さんの言葉から、本当にいろいろな啓発を得ました。模倣が最大の評価を表すのであるという言い方があると思います。皆さんから新しいことを学んだとするならば、まさにそれを模倣して、学生や生徒のために使いたいと思います。だからこそ、それが本質だと思うんです。ベストプラクティスはアメリカから、他の州から学ぶだけではなくて、日本からも最良観光を学んで帰りたいという、そのためにこういうような交流をやっている。

また、学生の交流もだからこそやるべきだ。お互いの文化を認識をし、若い人たちにも真似をしたいと思うような、素晴らしい内容を持ち帰るという機会を提供したいというふうに思っています。

グローバル化が進んでいる今の世界です。ですから州民が、あるいは市民が、県民が成功できるように、最大限の努力を知事がやっていくというのは当然なんです。グローバル化ということを考えると、国際交流の面でも推進していくということは、とても重要だと思います。

今後の知事、これから退任する人間も多いんですが、今後の知事のために素晴らしい置き土産を置いていくことができたということになると思っています。

○進行（平井鳥取県知事）

ありがとうございます。それでは上田会長の方からお願いします。

○上田会長（埼玉県知事）

荒井知事が個別にいろんな評価をしていただきました。そしてまた、平井知事が比較的、総括的にお話をしていただきましたので、私の出番がなくなっていました。言えることは、学び合う人だけがまさに進歩する。こんなふうに思い

ます。そういう学びの機会をサンドバル知事はじめ、皆様のお陰でチャンスをいただいたことに、改めて厚く感謝を申し上げて総括の弁にしたいと思います。本当にありがとうございました。

○進行（平井鳥取県知事）

では、これでセッションを終わらせていただきたいと思います。何とか時間どおりにこのセッションを、知事セッションを終わらせることができました。日米の知事的能力というのが、まさに実証されたのではないかと思います。ありがとうございました。

○司会

平井知事、進行役ありがとうございました。御参加、また御清聴いただきましたこと御礼申し上げたいと思います。

クロージングセレモニーとレセプションが開催されますので、御案内させていただきます。本日5時から、赤坂プリンスクラシックハウスの1階「グランドガーデンルーム」で開かれることになっています。

同時通訳でお使いになりましたイヤホン、レシーバーに関しては、席にそのままお残してください。

知事の皆様方、こちらにお並びください。

恐れ入ります。カメラをお持ちの関係各位の皆様方、撮影のお時間でよろしくお願いをいたします。

知事の皆様、ありがとうございました。

4. レセプション

(1) 全国知事会主催レセプション

【日 時】平成30年8月27日(月) 18:05～19:35

【場 所】ホテルニューオータニ東京 ザ・メイン宴会場階「芙蓉の間」

【参加者】（日本側）

上田 清司	全国知事会会長（埼玉県知事）
大村 秀章	愛知県知事
荒井 正吾	奈良県知事
平井 伸治	鳥取県知事
伊原木 隆太	岡山県知事

（米国側）

ブライアン・サンドバル	ネバダ州知事（全米知事会前会長）
マット・ベビン	ケンタッキー州知事
スザナ・マルティネス	ニューメキシコ州知事
マイク・フォーリー	ネブラスカ州副知事
ジェイ・ロハス	グアム島経済開発庁長官

(2) クロージング・セレモニー及びレセプション

【日 時】平成30年8月28日(火) 17:30～18:55

【場 所】赤坂プリンスクラシックハウス 1階 グランドガーデンルーム

【参加者】（日本側）

上田 清司	全国知事会会長（埼玉県知事）
平井 伸治	鳥取県知事
浜田 恵造	香川県知事

（米国側）

スザナ・マルティネス	ニューメキシコ州知事
マイク・フォーリー	ネブラスカ州副知事
ジェイ・ロハス	グアム島経済開発庁長官

5. 表敬訪問

安倍総理大臣

【日 時】平成30年8月28日(火) 16:45～17:00

【場 所】総理官邸

【参加者】（日本側）

上田 清司 全国知事会会長（埼玉県知事）

平井 伸治 鳥取県知事

浜田 恵造 香川県知事

（米国側）

ブライアン・サンドバル ネバダ州知事（全米知事会前会長）

マット・ベビン ケンタッキー州知事

スザナ・マルティネス ニューメキシコ州知事

マイク・フォーリー ネブラスカ州副知事